

授業科目名	化学		担当者名	眞柳 みゆき			
			実務経験				
教科書	歯科衛生学シリーズ 化学 (医歯薬出版) 適宜:配布資料(プリント)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	1	通 年	必修	講義
30							
授業概要	歯科衛生士として必要な物質の性質、構造、変化等の化学の基礎知識を習得する。						
学習到達目標	習得した化学の基礎知識を、歯科治療時に用いる種々の薬剤や歯科材料、また、歯科医学の理解へとつなげる。						
評価方法	出席・課題への取り組み・試験の結果を考慮して総合的に判断する。						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	化学とは？化学を学ぶ意義とは？		化学学習の必要性を理解する				
2	物質の分類①		純物質と混合物・単体と化合物の定義、元素と原子の概念を理解する				
3	物質の分類②						
4	物質の構造①		原子・元素の構造・表記方法等を理解する				
5	物質の構造②						
6	原子の電子配置		電子殻と原子の電子配置・価電子・イオンについて知る				
7	元素の周期律		周期表の見方を知る				
8	物質と物質の三態について		物質の概念と物質の三態を理解する				
9	化学結合		化学結合の種類と概念を理解する				
10	気体①		気体の定義・法則・空気について・気体の応用法を理解する 復習(-11)				
11	気体② 復習						
12	物質が溶けるとは？水溶液とは？		物質が水に溶ける仕組みについて理解する				
13	水溶液の濃度の表し方・計算法・希釈①		水溶液の概念・濃度の各種表し方と計算法・希釈方法を理解する				
14	水溶液の濃度の表し方・計算法・希釈②						
15	水溶液の濃度の表し方・計算法・希釈③						
16	水溶液の濃度の計算 復習		水溶液の濃度計算の復習				
17	水溶液の性質		希薄水溶液の示す性質やコロイド溶液について理解する				
18	酸とアルカリの水溶液①		酸とアルカリの水溶液の概念を知り、pH・中和反応・緩衝作用について理解する 復習				
19	酸とアルカリの水溶液② 復習						
20	酸化とは？還元とは？		酸化・還元・化学反応・化学平衡の概念を理解する 復習				
21	化学反応・化学平衡 復習						
22	有機化合物とは？		有機化合物の特徴や概念を理解する				
23	有機化合物の分類 ①		有機化合物の構造や分類法を理解する				
24	有機化合物の分類 ②						
25	代表的な有機化合物とその性質		代表的な有機化合物とその性質を知る				
26	高分子化合物とは？歯科で使用される有機化合物①		モノマーからポリマーへ・合成ゴムについて理解する 歯科で使用する有機化合物について知る				
27	高分子化合物とは？歯科で使用される有機化合物②						
28	ヒトを作っているものは何だろう		ヒトを作っているものは何だろうというテーマについて学ぶ:水・糖質・アミノ酸及びタンパク質・核酸および核酸関連物質・脂質・構成元素等 復習				
29	有機化合物について 復習						
30	総復習		歯科衛生士業務と「化学」との関わりを含めて総復習				

授業科目名	生物学		担当者名	片岡 博尚			
			実務経験				
教科書	歯科衛生学シリーズ 生物学 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	1	通 年	必修	講義
30							
授業概要	生命とは何か、地球上の生命はいかにして誕生したのかから説き起こし、生命をつくる細胞の成り立ちと活動、生命が連続する仕組み、そして生命が環境の変化にあわせて生活する仕組みについて学ぶ						
学習到達目標	私たち自身が動物であり、多くの生物と関わりをもつて暮らしていることを考えると、生物学は非常に身近で重要な学問です。皆さんが専門分野で学習する内容の基本でもあります。高校までの生物学は暗記中心の科目と捉えられがちですが、本当は物理学や化学を理解した上で学ぶ総合的な学問なのです。本講義では身近な事柄と関連させて、生きる仕組み、生命の不思議、人体の仕組みなどについて理解する						
評価方法	出席・小テスト・期末テストから総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	生物学:生きとし生けるものの科学		生物学を学ぶ意味が理解できる。				
2	生命① 生命とはなにか		生物は無生物と何が違うのかを考えることから、生命とはなにか、生きることを理解する。				
3	生命② 生命の誕生		地球上に生命が誕生する過程を理解する。				
4	生命③ 生命の変遷		原核細胞から真核細胞へ、単細胞生物から多細胞生物へ複雑化したことを理解する。				
5	生物は細胞からできている① 細胞を作る物質		細胞を作る主要な元素や水、タンパク質などの役割を学習する。				
6	生物は細胞からできている② 生命の単位—細胞		細胞が生命の単位であることを理解する。				
7	生物は細胞からできている③ 細胞小器官		細胞の構造と細胞小器官の役割について学習する。				
8	生物は細胞からできている④ 細胞のさまざまな活動		細胞の活動を支える酵素反応とATPの役割を理解し、呼吸、分泌、運動などの細胞の活動を学習する。				
9	細胞から個体へ① 細胞の一生		細胞分裂と細胞周期について学習し、細胞死にはアポトーシスとネクローシスがあることを理解する。				
10	細胞から個体へ② 単細胞生物と多細胞生物		単細胞生物と多細胞生物の違いを理解する。				
11	細胞から個体へ③ ヒトの組織は4種類		動物の組織は上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織に大別されることを理解する。				
12	細胞から個体へ④ ヒトの器官系		複数の組織が組み合わせられて器官がつくられること、共同して働く器官を器官系と呼ぶことを理解する。				
13	生命の連続① 無性生殖と有性生殖		無性生殖と有性生殖の違いを理解し、有性生殖によって遺伝子が組み合わせられ、異なる性質の子孫が生まれることを理解する。				
14	生命の連続② 減数分裂		有性生殖が起こるためには、減数分裂によって配偶子ができることを学びます。				
15	まとめ						
16	遺伝と遺伝子① 遺伝とその法則		優性の法則、分離の法則、独立の法則、伴性遺伝、致死遺伝について学習する。				
17	遺伝と遺伝子② 生命を作るしく仕組み		遺伝子はDNAであることを理解し、DNAにタンパク質の構造のじょうぼうが蓄えられていることを学ぶ。				
18	遺伝と遺伝子③ 遺伝子の働き		DNAの3塩基対でアミノ酸が指定され、mRNAが作られ、リボソームでタンパク質に翻訳されることを理解する。				
19	個体発生① 発生の過程と仕組み		動物の受精卵が胚を作る過程を学習し、外胚葉、中胚葉、内胚葉が作られる仕組みを理解する。				
20	環境と動物の反応① 感覚器:センサー		ヒトの感覚器と外部刺激を受容する仕組みを理解する。				
21	環境と動物の反応② 神経系による刺激の伝達		興奮の起きる仕組みと神経伝達について学ぶ。				
22	環境と動物の反応③ 中枢神経と末梢神経、反応		ヒトの神経系、特に自律神経系と体性神経系について学ぶ。				
23	内部環境の恒常性① ホメオスタシスと体液の浸透圧		ホメオスタシス(恒常性)について学ぶ。				
24	内部環境の恒常性② ホルモンとその働き		細胞間の情報伝達に中心的な役割を担っているホルモンについて学ぶ。				
25	内部環境の恒常性③ 自律神経とホルモンの協調作用		自律神経とホルモンの協調作用によってホメオスタシスの維持が為されていることを理解する。				

26	内部環境の恒常性④ 生体防御	病害微生物や外傷から身を守る仕組みを理解し、免疫、アレルギーについて学ぶ。
27	動物の行動と進化① 生得的行動	単細胞生物の走性や中枢神経系をもつ動物で見られる反射や本能的行動は生得的行動であることを学ぶ。
28	動物の行動と進化② 習得的行動	一方、大脳の発達した動物では学習による行動が増えてくることを理解する。
29	ヒトの進化と未来	ヒトはどこから来てどこへ行くのでしょうか、ともに考えてみましょう。将来も人類が存続するには何をすべきなのかを考える。
30	まとめ	

授業科目名	心理学		担当者名	石神 美環子			
			実務経験				
教科書	歯科衛生学シリーズ 心理学 医歯薬出版	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	脳の機能と心のしくみ、科学としての心理学の基礎的知識を習得するとともに、人間の本質について、様々な視点から理解する。						
学習到達目標	医療現場における患者への対応のみならず、日常的な人間関係やコミュニケーションに役立てることができるよう、学生自身の自己理解と自己洞察を促す。						
評価方法	出席、授業参加態度、課題等提出物、期末試験成績などから総合的に評価する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	心とは何か			「心」について、脳の仕組みや働きから理解する。			
2							
3	知覚と認知			人間の五感から捉えた世界、主観的現実について理解する。			
4							
5	意識と無意識			心の氷山の一角である「意識」、膨大な情報を蓄積する「無意識」について理解する。			
6							
7	感情と行動			認知行動学による情緒生起のメカニズムについて理解する。			
8							
9	欲求と動機			生理的欲求、心理的欲求、フラストレーションについて理解する。			
10							
11	「私」とは何か			前半のまとめとして、「私」という概念を形づくっているものについて考える。			
12							
13	発達と危機1			精神発達の2つの軸、乳児期から幼児期から幼児期までの発達課題と危機について理解する。			
14							
15	発達と危機2			児童期から老年期までの発達課題と危機について理解する。			
16							
17	性格と気質			パーソナリティの構造について、類型論と特性論から理解する。			
18							
19	集団の中の「私」			組織や集団によって影響される「私」の心理や行動について理解する。			
20							
21	対人認知と行動			他者理解に影響を及ぼす要因について理解する。			
22							
23	コミュニケーションの心理			言語、非言語のコミュニケーション、自己呈示と自己開示について理解する。			
24							
25	代表的な精神障害の理解			代表的な精神疾患の主な症状や対応について理解する。			
26							
27	対人援助の基礎1			カウンセリングの視点や考え方の基礎について理解する。			
28							
29	対人援助の基礎2			相談への応答、基本的な姿勢について理解する。			
30							

授業科目名	倫理学		担当者名	森 明人			
			実務経験				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理学 医歯薬出版 ・配付資料(プリント)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	日常生活の中の基本的なルールの成り立ちや枠組みについて理解し、より良い行動とは何かについて考える。						
学習到達目標	歯科衛生士の義務と責任に関する基本的な知識や考え方を身につけ、倫理綱領を理解する。 現代医療と社会について、学生自身の身近な日常の出来事と関連付けて考える。						
評価方法	提出課題、期末試験により総合的に評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	倫理学とは			語源から、その意味や意義を探る。			
2							
3	倫理学の重要性			倫理の重要性について、家庭や学校、社会などでの道徳教育を見ていながら、その重要性を知る。			
4							
5	日常生活と倫理			日常の存在を個人の倫理、社会の倫理との関係を理解する。			
6							
7	職業倫理とは			普遍的な倫理とは何かを考える。			
8							
9	専門職の職業倫理			専門職に求められる高い倫理性、高い判断、行動に対する規範について学ぶ。			
10							
11	職業倫理と職務規定、法律遵守責務			それぞれの内容について理解する。			
12							
13	医療と倫理			歴史を理解したうえで、現代における医療と倫理について学ぶ。			
14							
15	医療従事者の倫理観			チームケア医療の一員として倫理的判断に基づいた行動。			
16							
17	倫理綱領とは			より高い専門性が求められることを踏まえたうえで、なぜ倫理綱領が必要なのかを理解する。			
18							
19	インフォームド・コンセント			インフォームド・コンセントの実際と倫理的意義について考える。			
20							
21	歯科衛生士の倫理綱領①			全文及び条文解説。			
22							
23	歯科衛生士の倫理綱領②			条文解説			
24							
25	事例検証①			これまで学びを踏まえながら、倫理的問題を様々な事例を通して考える。			
26							
27	事例検証②			これまで学びを踏まえながら、倫理的問題を様々な事例を通して考える。			
28							
29	これまでの講義全体の要旨確認(まとめ)			まとめと確認を行う。 専門職としてのあるべき姿とは何かについて。			
30							

授業科目名	英語		担当者名	都築 玲子			
			実務経験				
教科書	English歯科英語の練習帳 萌文書林	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
	配布資料	時間数	歯科衛生科	1	通年	必修	講義
30							
授業概要	歯科診療において、外国人への対応が必要とされることが一般的となっている。歯科衛生士として診療にかかわる際に様々な場面を想定した会話を理解し、患者とのコミュニケーションの基本となる英語表現を学ぶ。また、国による歯科診療事情や歯科衛生士の役割についての英文読解を行い、歯科衛生士に必要とされる基礎英語力を養成する。						
学習到達目標	歯科診療に必要な英語での語彙・表現を身に着ける。リスニング、スピーキング、リーディングの基礎力を習得する。						
評価方法	出席、授業態度、テスト、レポート等、総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	授業予定、クラスルール説明、評価方法の説明 パンデミックが変える世界		クラスルール、評価の仕方、授業予定を発表する。現在の英語力を評価する。				
2	Iam Bremmer,Yuval Noah Harari,Jacques Attari パンデミックが変える世界		パンデミックの世界状況を知り、理解する。				
3	Unit 1Making an Appointment by Telephone 電話で診療を予約する		英語で予約をとる時の表現を学ぶ 歯科用後の意味が理解できる				
4	Unit 2Requests for Medicine 患者からお薬の依頼に対応する		Dialogue, 内容を理解する。 Vocabulary check				
5	Unit 2Requests for Medicine 歯ブラシと歯磨き		Dialogue Dictation Reading :歯科衛生士の仕事を理解する。				
6	Unit 3Emergency Appointments 緊急の予約		Dialogue, 内容を理解する。 歯科用後の意味が理解できる				
7	Unit 3Emergency Appointments 歯式について		ダイアローグをロールプレイング Reading :日本と海外の歯式について理解する。				
8	Unit 4National Health Insurance 外国人から国民健康保険の問い合わせ		Dialogue, 内容を理解する。 歯科用後の意味が理解できる				
9	Unit 4National Health Insurance 米国の歯科医療保険		ダイアローグをロールプレイング Reading :米国の歯科医療保険について理解する。				
10	Unit 5Asking the Patient to Describe Symptoms 患者に症状をたずねる		Dialogue, 様々な症状についての英語表現を学ぶ。 歯科用後の意味が理解できる				
11	Unit 5Asking the Patient to Describe Symptoms 外傷による脱落歯の応急処置		ダイアローグをロールプレイング Reading :歯科衛生士の働く場所について理解する。				
12	Unit 6Asking the Medical History 病歴をたずねる		Dialogue, 内容を理解する。 歯科用後の意味が理解できる				
13	Unit 6Asking the Medical History 問診票		ダイアローグをロールプレイング Reading :Health questionnaire を読み、記入する。				
14	Unit 7Periodontal Disease 歯周病		Dialogue, 内容を理解する。 歯科用後の意味が理解できる				
15	Unit 7Periodontal Disease タバコと口腔保健		ダイアローグをロールプレイング Reading、英国の歯科衛生士の仕事について読む。				

16	Unit 8 Pregnancy 妊娠性歯肉炎について	Dialogue, 内容を理解する。 vocabulary check 歯科衛生士の指導のポイントは何か理解できる。
17	Unit 9 Why do I Need a Cleaning? 口腔保健に関する国際目標	Dialogue, 内容を理解する。 歯科用語の意味が理解できる。
18	Unit 10 Informed Consent インフォームドコンセントとは何か	Dialogue, 内容を理解する。 Reading インフォームドコンセントを得る過程について理解する。
19	Unit 10 Informed Consent Dialogue part 2	ダイアログをロールプレイング 歯科用語の意味が理解できる。
20	Unit 11 Sealants シーラントとは何か Dialogue part 1	Dialogue, 内容を理解する。 Reading シーラントとは何か理解する。
21	Unit 11 Sealants Dialogue part 2	ダイアログをロールプレイング 歯科用語の意味が理解できる。
22	Unit 12 Fluoride Treatment フッ化物の働きについて	Dialogue, 内容を理解する。 Reading フッ化物の働きについて理解する。
23	Unit 12 Fluoride Treatment	ダイアログをロールプレイング 歯科用語の意味が理解できる。
24	Unit 13 Tooth brushing Instructions for a Child 子供の歯のケア	Dialogue, 内容を理解する。 Reading 乳幼児から幼児までの子供の口腔ケアについて説明できる。
25	Unit 14 Tooth Brushing for an Adult おとなへの歯磨き指導	ダイアログをロールプレイング 歯科用語の意味が理解できる。
26	Unit 15 Postoperative Instructions to the Patient	Dialogue, 内容を理解する。 Reading 麻酔がさめるまでの注意点を説明できる。
27	Unit 15 Postoperative Instructions to the Patient 術後の注意点について	ダイアログをロールプレイング 歯科用語の意味が理解できる。
28	Unit 16 After Treatment	Dialogue, 内容を理解する。 術後の患者指導について説明できる。
29	Unit 16 After Treatment 歯科治療によく使われる鎮痛剤について	ダイアログをロールプレイング Reading よく使用される鎮痛剤について理解できる。
30	Unit 17 Visit to an American Dental Clinic 世界の歯科衛生士	Dialogue, 内容を理解する。 International Federation of Dental Hygienists について理解する。

授業科目名	解剖学		担当者名	塩谷 誠章			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学 (医歯薬出版)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		時間数					
授業概要	全身の大まかな基本構造および機能に関して学ぶ。						
学習到達目標	医療者として知っておいて欲しい全身の解剖学的、生理学的知識を習得する。						
評価方法	出席率を満たした上で試験成績を評価						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	解剖学の概要		人体の構造を大まかに把握する				
2	細胞と組織 ①		細胞や組織の構造、機能を把握する				
3	細胞と組織 ②						
4	骨 学 ①		体を構成する骨の構造、機能を理解し、 代表的な各骨の名称を記憶する				
5	骨 学 ②						
6	骨 学 ③						
7	骨 学 ④						
8	骨 学 ⑤						
9	筋 肉 ①		体を構成する筋の構造、機能を理解 する。				
10	筋 肉 ②						
11	筋 肉 ③						
12	筋 肉 ④						
13	筋 肉 ⑤						
14	内 臓 ①		消化器の基本構造、機能を理解する。 また、各栄養素の代謝過程について理解 する。				
15	内 臓 ②						
16	内 臓 ③						
17	内 臓 ④						
18	内 臓 ⑤						
19	脈 管 ①		脈管系の基本構造、機能を理解し、全身 の代表的な脈管系の名称を記憶する				
20	脈 管 ②						
21	脈 管 ③						
22	脈 管 ④						
23	脈 管 ⑤						
24	感覚器①		感覚器の基本構造、機能を理解する				
25	感覚器②						
26	神 経 ①		神経系の基本構造、機能を理解し、全身 の代表的な神経系の名称を記憶する				
27	神 経 ②						
28	神 経 ③						
29	神 経 ④						
30	神 経 ⑤						



授業科目名	組織・発生学		担当者名	笹野 泰之			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	・歯科衛生学シリーズ「解剖学・組織発生学・生理学」「口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会 監修(医歯薬出版) ・配布資料(プリント)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	1	前期	必修	講義
	30						
授業概要	人体と歯・歯周組織の構造と発生について、構成する細胞や組織を中心に学ぶ。教科書の内容を基本に授業を進め、配布資料等で補足する。						
学習到達目標	人体の構造および発生についての基礎的知識を学修する。さらに、歯・歯周組織の構造・発生を理解し、それらを構成する細胞や組織についての専門的知識を修得する。						
評価方法	学期末試験の結果による評価						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	細胞の構造と機能		細胞についての概要を理解する。				
2	細胞の一生(増殖と寿命)						
3	上皮組織・支持組織の構造		人体を構成する4つの組織についての専門的知識を修得する。				
4	筋組織・神経組織の構造						
5	体細胞分裂と減数分裂		体細胞分裂と減数分裂の違いを理解する。				
6	精子と卵子の発生		生殖細胞の発生を理解する。				
7	胚葉の形成		三胚葉の形成、器官発生、胚子・胎児の成長過程を理解する。				
8	胎児の成長と発育						
9	エナメル質の構造		歯を構成する組織の構造を理解し、専門的知識を修得する。				
10							
11	象牙質・歯髄複合体の構造						
12							
13	セメント質の構造						
14							
15	歯根膜の構造		歯周組織の構造を理解し、専門的知識を修得する。				
16	歯槽骨の構造						
17	歯肉の構造						
18	口腔粘膜の構造		口腔粘膜の分類を学び、特徴を理解する。				
19	鰓弓の形成		顎顔面・口腔領域の発生を理解する。				
20	顔面と口唇の形成						
21	口蓋と鼻腔の形成						
22	舌・腺の形成						
23	歯の発生: 歯胚の形成と成長		歯の初期発生を理解する。				
24							
25	歯の発生: 象牙質・エナメル質の形成		歯の組織形成・形態形成について理解する。				
26	歯の発生: 歯髄・セメント質・歯根の形成						
27	歯根膜・歯槽骨の形成		歯周組織の形成について理解する。				
28	歯の萌出・脱落・交換		代生歯についての専門的知識を修得する。				
29	組織学のまとめ		これまでの総復習を行い、顎顔面と歯の形成と構造について理解を深める。				
30	発生学のまとめ						

授業科目名	生理学		担当者名	中井淳一・安藤恵子			
			実務経験	(中井)医師として病院勤務の経験がある			
教科書	・歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1」「歯・口腔の構造と機能」全国歯科衛生士教育協議会 監修 ・配布資料(プリント)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	1	前期	必修	講義
	30						
授業概要	近年、歯科衛生士は臨床のさまざまな場で活躍しており、口腔・歯の知識とともに、全身の理解は不可欠である。本講義では、解剖学、組織発生学を基礎として、生理学を学ぶ。また、口腔生理学についての知識を習得し、歯および顎・口腔の構造と機能、人体の構造と機能について学習する。						
学習到達目標	人体の機能の基礎的事項について学び理解する。さらに、歯科衛生士として特に必要とされる歯および顎・口腔の機能について知識を習得し、理解を深める。						
評価方法	筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	[解剖学で学ぶこと・生理学で学ぶこと]生理学とは			生理学の概念と医学における重要性について説明できる。細胞の構造と機能を説明できる。			
2	[細胞と組織] 細胞の生理的機能						
3	[血液と体液] 血液成分、血液の機能、血液凝固と溶解、血液型と輸血			血液成分、血液の機能、血液型と輸血について説明できる。			
4							
5	[循環] 心臓、体循環、肺循環、構造、拍動、活動電位と心電図、血管、血圧、血液量と血圧、リンパ循環、循環性ショック			循環器系の構造と機能について説明できる。心電図、血圧について説明できる。			
6							
7	[呼吸] 呼吸器の構成、胸郭の構造と換気、肺気量と換気量、肺胞および組織におけるガス交換、血液中の O <sub>2</sub> とCO <sub>2</sub>			呼吸器系の構造と機能について説明できる。			
8							
9	[消化・吸収] 消化と吸収の意義、口腔での消化、胃の機能、小腸の機能、大腸の機能			消化器系の構造と機能について説明できる。			
10							
11	[神経系] 構成、機能(静止膜電位、活動電位、伝導、シナプス)、中枢神経系、末梢神経系			神経細胞(ニューロン)の性質と機能、中枢神経系と末梢神経系の構造と機能について説明できる。			
12							
13	[筋と運動] 筋の構造と機能・収縮様式、骨格筋、心筋、平滑筋、運動ニューロン、反射と随意運動、姿勢調整、筋電図			筋の種類、およびそれぞれの筋の構造と機能について説明できる。骨格筋と運動について説明できる。			
14							
15	[感覚] 感覚の基本的性質、特殊感覚器の構造と機能、体性・内臓感覚			体性・内臓感覚と特殊感覚について説明できる。			
16							
17	[排泄] 排便 皮膚からの排泄、尿と腎臓			排泄と体温の調節について説明できる。			
18	[体温] 体熱の生産・放散、体温の調節、体温の変動						
19	[内分泌] 内分泌器官とホルモン、内分泌器官の構造と機能			内分泌系の構造と機能について説明できる。			
20							
21	[内分泌] 血中カルシウム調節、その他のホルモン、歯とホルモン			カルシウム調節、歯とホルモンについて説明できる。生殖系の基本事項を説明できる。			
22	[生殖] 性周期とホルモン、分娩と乳汁分泌						
23	[歯及び歯周組織の構造と機能] 象牙質歯髄複合体 歯根膜			歯および歯周組織の構造と機能について説明できる。歯と口腔感覚について説明できる。			
24	[歯と口腔の感覚] 歯、歯根膜、歯髄、口腔粘膜の感覚						
25	[味覚と嗅覚] 味覚、嗅覚			味覚と嗅覚のしくみについて説明できる。			
26							
27	[咬合と咀嚼・吸啜] 顎反射、摂食行動、咀嚼能力、吸啜			咬合と咀嚼・吸啜について説明できる。			
28							
29	[発声・嚥下・嘔吐]			発声・嚥下・嘔吐のしくみ、唾液の機能について説明できる。			
30	[唾液] 唾液腺、分泌機能、唾液の性状・成分と機能、唾液と疾患						

授業科目名	生化学		担当者名	土門 ひと美			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	・歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能2 栄養と代謝」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	<p>私達の身体をつくっている各種構造物について分子レベルから学び、体内の動的な活動としてのエネルギー代謝や物質代謝、遺伝子や細胞内の情報伝達の働きについて理解を深める。また、口腔に特徴的な歯、歯周組織、唾液、プラークを対象とし、その構成成分やそこで生じる現象、特にう蝕と歯周病に関して生化学的に理解する。</p> <p>生化学における栄養と体内での代謝について学ぶ。生体の構成成分とその役割を理解し、食物の摂取と栄養素の消化・吸収およびその働きについて理解を深める。また、現代社会における食事摂取の栄養上の問題点を理解し、歯科衛生士として口腔の健康維持管理のみならず、各ライフステージにおける食生活指導での医療従事者として果たすべき役割を理解する。</p>						
学習到達目標	<p>歯科衛生士として、患者に口腔衛生指導や栄養管理指導をする際に必要な生化学的知識、さらにう蝕や歯周病等の病因や予防について理解するために必要な口腔生化学的知識を習得する。</p> <p>現代における食物摂取の栄養上の問題点を学ぶ。また、各栄養素の消化・吸収・働き、体内における相互作用、さらに、食生活と健康との関連について学び、栄養指導の必要性について理解する。ライフステージ別の食生活の特徴を把握し、歯科衛生士として果たすべき役割を理解する。</p>						
評価方法	出席・試験(9月)の結果を総合評価する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	栄養と代謝【生化学で学ぶこと】			生化学を学ぶ目的・意義について理解する。細胞の構造や細胞小器官の働きおよび生体の反応に必要な水の働きについて説明できる。			
2	生体の構成要素1【細胞の役割、生体における水】						
3	生体の構成要素2【生体構成成分と栄養素：糖質、脂質、タンパク質、ミネラル、ビタミン】			生体構成成分と糖質、脂質、タンパク質、ミネラル、ビタミンの栄養素について説明できる。			
4							
5	生体における化学反応【消化と吸収、酸素の運搬と二酸化炭素の排出、酵素】			栄養素の消化および吸収について説明できる。酸素の運搬と二酸化炭素の排出について説明できる。			
6							
7	糖質と脂質の代謝【エネルギー代謝の全体像、糖質の代謝とエネルギーの生成、脂質の代謝とエネルギーの生成】			エネルギー代謝の全体像を理解する。主要なエネルギー基質である糖質および脂質の代謝について説明できる。			
8							
9	タンパク質とアミノ酸の代謝【タンパク質の加水分解、アミノ酸の代謝分解、タンパク質の合成】			アミノ酸の代謝分解過程、アミノ酸からタンパク質が合成される過程を説明できる。血液のpHおよび血糖値の調節について理解し、恒常性について説明できる。			
10	生体における恒常性の維持【ホルモン・自律神経】						
11	歯と歯周組織の生化学【結合組織(コラーゲン、プロテオグリカンなど)、歯(ヒドロキシアパタイト、コラーゲン、エナメルタンパク質など)】			歯と歯周組織について理解する。コラーゲンなどの結合組織について説明できる。歯の無機成分および有機成分について説明できる。			
12							
13	硬組織の生化学【血清中のカルシウムとリン酸、石灰化の仕組み、骨の石灰化と吸収、歯の脱灰と再石灰化】			血清中のカルシウムとリン酸濃度およびカルシウム調節に関与するホルモンを説明できる。歯と骨の石灰化の特徴について理解する。歯の脱灰と再石灰化について説明できる。			
14							
15	唾液の生化学【唾液の組成と機能(無機質、有機質など)】			唾液中の無機質や有機質の種類を列挙する。唾液中の無機質および有機質の作用について説明できる。			
16							
17	プラークの生化学1【プラークの生物活性、プラークによるう蝕発症機構】			う蝕におけるプラークの関わりについて説明できる。			
18							
19	プラークの生化学2【プラークによる歯周疾患発症機構、プラークによる口臭発症機構】			歯周疾患におけるプラークの関わりについて説明できる。歯周疾患と生体防御反応の関わりについて理解する。			
20							
21	栄養の基礎【栄養の基礎知識、栄養素の消化・吸収、栄養素の役割】			栄養の知識を学ぶ必要性、生体成分の役割、栄養素の消化・吸収、消化酵素、体格指数について理解・説明できる			
22	食事摂取基準【エネルギー必要量、基礎代謝、日本人の食事摂取基準】			エネルギー換算係数、個人の推定エネルギー必要量、脂肪エネルギー比率、基礎代謝量、基礎代謝量に影響を及ぼす因子、日本人の食事摂取基準について理解・説明できる			
23	栄養素の働き【糖質】			糖質の種類・働き・必要量、糖アルコール・代用甘味料について説明できる。			

24	栄養素の働き【タンパク質】	タンパク質の種類・働き・必要量、必須アミノ酸、不足と過剰の影響について説明できる。
25	栄養素の働き【脂質】	脂質の種類・働き・必要量、脂肪酸の種類について説明できる。
26	栄養素の働き【ビタミン】	ビタミンの種類・働き・必要量、欠乏症・過剰症について説明できる。
27	栄養素の働き【ミネラル、水、食物繊維】	ミネラルの種類・働き・必要量、欠乏症・過剰症について説明できる。 水と食物繊維の働きと代謝についてその概念を説明できる。
28	食生活と健康【国民の健康と栄養の現状、食生活改善の取り組み】	死因別死亡率の年次推移、国民栄養の現状、国民健康・栄養調査、健康日本21(第2次)についてその概略を説明できる。
29	食生活と健康【食生活改善の取り組み、ライフステージ別の栄養と管理】	食事バランスガイド、特別用途食品制度、成長期・成人期・高齢期における栄養と調理の特性、嚥下困難への対応について説明できる。
30	食べ物と健康【食品の成分と分類、食べ物の物性】	食品成分表、食品分類、基本味、食品添加物について説明できる。

授業科目名	口腔解剖学		担当者名	市川 博之			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学 口腔解剖学・口腔組織発生学・ 口腔生理学(医歯薬出版)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生学科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	口腔解剖学は他科目との関連も深く、基礎知識としても重要な科目である。受講学生には積極的な態度で講義に臨むことを期待する。						
学習到達目標	歯科衛生士に必要な基礎医学の1分野として解剖学を修得する。主に口腔領域と関係する骨・粘膜・筋肉・脈管・神経および歯に対して形態的、組織的、生理的に理解する。						
評価方法	出席状況、授業態度、適宜行われる小テスト、筆記試験などにより総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	口腔付近の解剖学 1) 口腔とは(口唇と頬)		左記内容について理解し、実践問題に対応できる実力をつける。				
2	" 2) 口腔前庭						
3	" 3) 固有口腔、口峽						
4	" 4) 舌						
5	" 5) 唾液腺						
6	" 6) 咽頭						
7	" 7) 上顎骨						
8	" 8) 口蓋骨						
9	" 9) 下顎骨						
10	歯の解剖学 1) 歯の概論①						
11	" 2) " ②						
12	" 3) " ③						
13	" 4) 永久歯①(特徴)						
14	" 5) 永久歯②(前歯1)						
15	" 6) 永久歯③(前歯2)						
16	" 7) 永久歯④(前歯3)						
17	" 8) 永久歯⑤(小臼歯1)						
18	" 9) 永久歯⑥(小臼歯2)						
19	" 10) 永久歯⑦(小臼歯3)						
20	" 11) 永久歯⑧(大臼歯1)						
21	" 12) 永久歯⑨(大臼歯2)						
22	" 13) 永久歯⑩(大臼歯3)						
23	" 14) 永久歯⑪(大臼歯4)						
24	" 15) 乳歯①(特徴・乳前歯1)						
25	" 16) 乳歯②(乳前歯2)						
26	" 17) 乳歯③(乳臼歯)						
27	" 18) 歯の配列						
28	" 19) 咬合関係						
29	" 20) 異常歯1						
30	" 21) 異常歯2						

授業科目名	病理学		担当者名	土門 ひと美・額額 衆			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 「病理学・口腔病理学」 医歯薬出版	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	疾病についての基本的な考え方を概説する。それに基づき、顎口腔領域に発症する多彩な疾病について解説する。						
学習到達目標	疾病についての基本的な考え方を修得し、顎口腔領域に発症する多彩な疾病についての理解を得る。						
評価方法	出席および試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	概論: 病因論、方法論			疾病についてのガイダンス。			
2	総論: 先天異常			基本的な疾病について把握する。			
3	総論: 循環障害			基本的な疾病について把握する。			
4	総論: 循環障害			基本的な疾病について把握する。			
5	総論: 代謝障害			基本的な疾病について把握する。			
6	総論: 代謝障害			基本的な疾病について把握する。			
7	総論: 修復			基本的な疾病について把握する。			
8	総論: 修復			基本的な疾病について把握する。			
9	総論: 炎症・免疫			基本的な疾病について把握する。			
10	総論: 炎症・免疫			基本的な疾病について把握する。			
11	総論: 腫瘍			基本的な疾病について把握する。			
12	総論: 腫瘍			基本的な疾病について把握する。			
13	口腔病理: 歯の発育異常			顎口腔領域の疾病を理解する。			
14	口腔病理: 歯の発育異常			顎口腔領域の疾病を理解する。			
15	口腔病理: 齲蝕、歯髄・根尖部病変			顎口腔領域の疾病を理解する。			
16	口腔病理: 齲蝕、歯髄・根尖部病変			顎口腔領域の疾病を理解する。			
17	口腔病理: 辺縁性歯周組織病変			顎口腔領域の疾病を理解する。			
18	口腔病理: 辺縁性歯周組織病変			顎口腔領域の疾病を理解する。			
19	口腔病理: 口腔粘膜病変			顎口腔領域の疾病を理解する。			
20	口腔病理: 口腔粘膜病変			顎口腔領域の疾病を理解する。			
21	口腔病理: 顎骨・顎関節病変			顎口腔領域の疾病を理解する。			
22	口腔病理: 顎骨・顎関節病変			顎口腔領域の疾病を理解する。			
23	口腔病理: 嚢胞・歯源性腫瘍			顎口腔領域の疾病を理解する。			
24	口腔病理: 嚢胞・歯源性腫瘍			顎口腔領域の疾病を理解する。			
25	口腔病理: 口腔腫瘍			顎口腔領域の疾病を理解する。			
26	口腔病理: 口腔腫瘍			顎口腔領域の疾病を理解する。			
27	口腔病理: 唾液腺病変			顎口腔領域の疾病を理解する。			
28	口腔病理: 唾液腺病変			顎口腔領域の疾病を理解する。			
29	口腔病理: 顎口腔の発育異常			顎口腔領域の疾病を理解する。			
30	口腔病理: 顎口腔の発育異常			顎口腔領域の疾病を理解する。			

授業科目名	薬理学		担当者名	篠田 壽・村上 忍			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ『疾病の成りたち及び回復過程の促進3 薬理学』.医歯薬出版株式会社.	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	薬物が生体に及ぼす効果とそれら薬物の臨床応用についての基本事項を講義する。						
学習到達目標	歯科医療において使用される薬物の作用について理解するとともに、一般医療において頻度多く使われている薬物について学び、医療従事者の一員としての一般常識を獲得する。						
評価方法	筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	薬理学とは、薬理作用の様式と分類			薬理学の領域、薬理作用について理解する。			
2	薬用量、用量反応関係			薬物の効果は薬用量に依存することを理解する。			
3	薬物の作用機序			受容体の概念について理解する。			
4	薬物動態(1)			薬物の吸収・分布について理解する。			
5	薬物動態(2)			薬物の代謝・排泄について理解する。			
6	薬物の適用方法			薬物の適用方法の種類と特徴について理解する。			
7	薬物の作用に影響を与える要因			薬理作用を規定する複数の要因を理解する。			
8	薬物の副作用、有害作用、相互作用			薬物使用に伴うリスクについて理解する。			
9	医薬品の種類、薬物と法律			医薬品の法的な定義と規制について理解する。			
10	医薬品の開発			新薬が開発される過程について理解する。			
11	ビタミンとホルモン			主なビタミン、ホルモンの薬理作用を説明できる。			
12	末梢神経系に作用する薬物			末梢神経系に作用する薬物について説明できる。			
13	中枢神経系に作用する薬物			中枢神経系に作用する薬物について説明できる。			
14	循環器系に作用する薬物			循環器系に作用する薬物について説明できる。			
15	腎臓に作用する薬物			腎臓に作用する薬物について説明できる。			
16	呼吸器系に作用する薬物			呼吸器系に作用する薬物について説明できる。			
17	消化器系に作用する薬物			消化器系に作用する薬物について説明できる。			
18	血液に作用する薬物			止血薬、抗血栓薬について説明できる。			
19	免疫と薬			免疫増強・抑制薬、抗アレルギー薬について説明できる。			
20	悪性腫瘍と薬			主な抗悪性腫瘍薬について説明できる。			
21	代謝性疾患治療薬			糖尿病・骨粗鬆症治療薬について説明できる。			
22	炎症と薬			炎症の経過、抗炎症薬について説明できる。			
23	痛みと薬			麻薬性・非麻薬性鎮痛薬について説明できる。			
24	局所麻酔薬			局所麻酔薬について説明できる。			
25	抗感染症薬			抗感染症について説明できる。			
26	消毒に使用する薬			消毒薬について説明できる。			
27	う蝕予防薬・歯内療法薬			フッ化物、歯内療法薬について説明できる。			
28	歯周疾患治療薬			歯周病疾患治療薬について説明できる。			
29	顎・口腔粘膜疾患と薬			顎・口腔粘膜疾患の治療薬について説明できる。			
30	漢方医学と薬物			漢方医学、漢方薬について説明できる。			

授業科目名	微生物学		担当者名	多田 浩之			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	・歯科衛生学シリーズ微生物学 医歯薬出版株式会社 ・配布資料(プリント)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	微生物学では、微生物の生態・構造・機能、増殖・代謝、病原因子、感染機構・感染予防および病原微生物と感染症の特徴を学び、免疫学では免疫機構(自然免疫・抗原認識・獲得免疫)を中心に病原微生物に対する宿主防御機構を学ぶ。						
学習到達目標	微生物学では病原微生物の生態、微生物-宿主関係ならびに感染症を理解し、免疫学では病原微生物に対する免疫応答を理解することを目標とする。						
評価方法	毎回の小テストと期末試験の成績を総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	微生物学の概要:微生物の世界、病原微生物学の歴史			微生物学の概要を説明できる。□			
2	感染:感染の成立、感染の種類			感染の定義、成立要件と種類を説明できる。			
3	微生物学総論:細菌			細菌の形態、構造と病原因子を説明できる。			
4	微生物学総論:ウイルス、真菌			ウイルス、原虫の形態と構造を説明できる。			
5	微生物の培養、観察と検査:培養法、観察法、検査法			微生物の培養法、観察法と検査法を説明できる。			
6	化学療法:化学療法薬、抗菌薬、抗真菌薬			化学療法の種類と作用機序を説明できる。			
7	化学療法:薬物耐性、副作用、抗ウイルス薬、抗真菌薬、抗寄生虫薬			薬物耐性、副作用とその他の化学療法を説明できる。			
8	消毒と滅菌:消毒法、滅菌法、標準予防策(スタンダード・プレコーション)			消毒・滅菌と標準予防策を説明できる。			
9	口腔環境:唾液、ペリクル、歯肉溝浸出液			口腔環境における宿主の役割を説明できる。			
10	口腔環境:口腔常在微生物			口腔環境における微生物の役割を説明できる。			
11	プラーク:プラークの形成と成熟、バイオフィーム			プラークの形成、成熟とバイオフィームを説明できる。			
12	う蝕:発生機序、う蝕原性細菌、う蝕予防法			う蝕の機序、う蝕原性細菌と予防法を説明できる。			
13	歯周病:分類、歯周病原細菌、歯周組織の破壊、歯周病予防法			歯周病の機序、歯周病原細菌と予防法を説明できる。			
14	義歯性カンジダ症、誤嚥性肺炎、感染性心内膜炎、インプラント周囲炎			微生物による口腔感染症を説明できる。			
15	【宿題の解説】微生物学 総論			微生物学 総論の知識を整理する。			
16	病原細菌:グラム陽性球菌			病原細菌の性状、病原因子と感染機構を説明できる。			
17	病原細菌:グラム陽性桿菌、グラム陰性菌			病原細菌の性状、病原因子と感染機構を説明できる。			
18	病原細菌:スピロヘータ、マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア			病原細菌の性状、病原因子と感染機構を説明できる。			
19	病原ウイルス:DNA/RNAウイルス、レトロウイルス、肝炎ウイルス			ウイルスの性状、病原因子と感染機構を説明できる。			
20	その他の病原微生物:口腔カンジダ症、原虫感染症、プリオン			真菌/原虫/プリオンの性状、病原因子と感染機構を説明できる。			
21	【宿題の解説】微生物学 各論			微生物学 各論の知識を整理する。			
22	免疫:免疫学概論			免疫の原理と免疫細胞を説明できる。			
23	免疫:自然免疫			自然免疫の仕組みを説明できる。			
24	免疫:抗原提示1			外来性抗原の抗原提示を説明できる。			
25	免疫:抗原提示2			内在性抗原の抗原提示を説明できる。			
26	免疫:獲得免疫			獲得免疫の仕組みを説明できる。			
27	免疫:ワクチン			ワクチンの種類と性質を説明できる。			
28	免疫:粘膜免疫、アレルギー			粘膜免疫とアレルギーの仕組みを説明できる。			
29	免疫:自己免疫疾患、免疫寛容、免疫不全、移植免疫			免疫の異常による疾患を説明できる。			
30	【宿題の解説】免疫学			免疫学の知識を整理する。			



授業科目名	口腔衛生学		担当者名	笹井 真澄			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 保健生態学 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	1	後期	必修	講義
	30						
授業概要	衛生学, 保健生態学の概念, 方法論の基礎を学ぶ。一次予防, 二次予防および三次予防の概念と理論に基づき, 環境諸要因が個人・集団の健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め, 疾病予防や健康増進への アプローチの方法等, 保健予防・医療に関する知識を習得する。						
学習到達目標	社会と健康, 衛生学・保健生態学の概念, 理論を理解する。さらに, 個人および集団・社会における健康増進, 保健予防を実践するための基礎的方法論を理解し修得する。						
評価方法	出席率および期末考査の結果などを総合評価						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	保健生態学総論		保健生態学の定義を説明できる。				
2	疫学(1)		疫学の定義を説明できる。				
3	疫学(2)		疫学研究の方法をそれぞれ理解できる。				
4	人口(1)		人口ピラミッドについて説明できる。				
5	人口(2)		静態統計と動態統計について説明できる。				
6	健康と環境		健康と環境の関係を理解できる。				
7	感染症(1)		感染症の概念及び感染成立の三要因について説明できる。				
8	感染症(2)		主な感染症とその動向を説明できる。				
9	食品と健康(1)		食中毒の分類と特徴を説明できる。				
10	食品と健康(2)		日本人の食事摂取基準の基本的概念を理解できる。				
11	I 編総復習		健康を左右する環境について総合的に 理解する。				
12	歯・口腔の健康総論		歯と歯周組織の構造と働きを説明できる。				
13	口腔清掃		口腔清掃法の種類を説明できる。				
14	歯科疾患の疫学		う蝕と歯周疾患の疫学的特性について 説明できる。				
15	う蝕病因論		リスクに応じたう蝕予防処置の方針について説明できる。				
16	フッ化物によるう蝕予防		フッ化物の毒性を認識し, 正しい対処法を理解できる。				
17	歯周疾患の予防		歯周疾患の種類と原因を説明できる。				
18	その他の疾患・異常の予防		う蝕や歯周疾患以外の様々な歯科疾患について説明できる。				
19	ライフステージごとの口腔保健管理		各ライフステージごとの口腔保健管理に説明できる。				
20	II 編総復習		歯・口腔の健康と予防について総合的に理解する。				
21	地域保健・公衆衛生		地域保健の基本的な進め方を理解できる。				
22	母子保健		わが国の母子保健の概念を説明できる。				
23	学校保健		学校保健の保健教育と保健管理の概要を説明できる。				
24	成人保健		成人期の口腔保健管理について説明できる。				
25	産業保健		職業性疾病について理解し, 労働衛生対策の基本を説明できる。				
26	老人(高齢者)保健		高齢者の保健対策を説明できる。				
27	精神保健		精神保健の現状と課題を理解する。				
28	災害時の歯科保健		大規模災害時の保健医療を概説できる。				
29	国際保健		国際的な口腔保健戦略について理解する。				
30	III 編総復習		地域保健について総合的に理解する。				

授業科目名	歯科衛生士概論		担当者名	横山さゆり			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論 医歯薬出版株式会社 配布物(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	1	前期	必修	講義
授業概要	歯科衛生士の業務を理解し、医科歯科連携・多職種連携を意識した医療人を目指す。調べる・整理する・媒体を考える・プレゼンテーションすることに興味をもたせ実践する。						
学習到達目標	1. 歯科衛生士法を理解し、歯科衛生業務の重要性を述べることができる。2. 歯科衛生士として求められている資質を理解している。3. 他国の歯科衛生士の状況を理解する4. 医療安全について理解する。						
評価方法	実技(プレゼンテーション) 筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション						
2	第5章 歯科衛生士法の理解			歯科衛生法を理解し、業務内容を説明することができる。			
3	第5章 歯科衛生士の義務			歯科衛生法を理解し、業務内容を説明することができる。			
4	第1章 歯科衛生学 歯科衛生と健康 歯科衛生活動の対象・領域			チーム医療および NSTを理解する。			
5	他職種連携 チーム医療を構成する資格を調べる			チーム医療を構成する資格について調べ、歯科衛生士との関りについて述べるができる。			
6	他職種連携 チーム医療を構成する資格をまとめる						
7	他職種連携 チーム医療を構成する資格をまとめる						
8	第2章 歯科衛生士の歴史			歯科衛生士の誕生について調べ、年表を作成する。			
9	第2章 歯科衛生士の歴史 年表作成						
10	第2章 歯科衛生の背景			歯科衛生士誕生の背景を知り、現在とのつながりについて知る。			
11	第2章 歯科衛生業務の現状 役割と展望			歯科衛生士に期待される事柄を知る。			
12	第3章 歯科衛生活動のための理論 予防の概念			予防の概念を述べるができる。			
13	第3章 科学的思考			科学的思考について述べるができる。			
14	第4章 歯科衛生過程			歯科衛生過程について述べるができる。			
15	第5章 関連法規			歯科衛生士法の他の法規について知る。			
16	第5章 安全管理			事故防止のための対策について知る。			
17	第6章 歯科衛生士と医療倫理			医療倫理について歴史的背景を知る。			
18	第6章 対象の自己決定権 インフォームドコンセント			患者中心の医療について述べるができる。			
19	他職種連携 プレゼンテーション			チーム医療の一員として歯科衛生士と協働する多職種について調べ、その内容を発表する。			
20	他職種連携 プレゼンテーション						
21	他職種連携 プレゼンテーション						
22	第7章 歯科衛生士の活動と組織 活動の現況			職業団体としての活動を知る。			
23	第7章 歯科衛生活動の場			診療所以外の活動の場について知る。			
24	歯科衛生士の働き方			いろいろな活躍の場について知る。(DVD鑑賞)			
25	歯科衛生士としてになりたい自分象			KJ法 グループワークに参加し意見を述べる。			
26	歯科衛生士としてになりたい自分象			発表 グループワークに参加する。			
27	第8章 海外における歯科衛生士			海外で活躍している歯科衛生士について知る。			
28	海外で活躍する日本の歯科衛生士			海外で活躍している歯科衛生士について調べる。			
29	海外で活躍する日本の歯科衛生士			海外で活躍している歯科衛生士について調べる。			
30	まとめ			復習			

授業科目名	歯周病学Ⅰ		担当者名	根本 英二			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯周病学第2版 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	歯科衛生士として歯周病に対するチーム医療に参画し、その予防と治療を実践するために、歯周療法学を体系的に学習し、修得する。						
学習到達目標	<p>歯周組織の病態、同組織に生じる疾患およびその治療の進め方を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯周組織の構造と機能について説明できる。</li> <li>2. 歯周病の発症・進展機構について説明できる。</li> <li>3. 歯周治療の理論的背景について説明できる。</li> <li>4. 歯周治療の術式を知り、それを説明できる。</li> <li>5. 歯周治療に果たす歯科衛生士の役割を説明できる。</li> </ol>						
評価方法	授業への出席状況を参考にするとともに、筆答試験の成績をもって評価する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	歯周組織の構造と機能			歯周組織の解剖学、機能的に見た歯周組織の特異性を説明できる。			
2							
3	歯周病の病因論			歯周病の病原因子、細菌学・免疫学からみた歯周病の病態を説明できる。			
4							
5	歯周病の徴候と病態			歯周病の病型とその特徴を説明できる。			
6							
7	歯周病の分類と臨床的特徴			各種歯周病の特徴・原因、症状・処置を説明できる。			
8							
9	歯周疾患の検査と診断			歯周組織検査法、歯周病診断の考え方を説明できる。			
10							
11	歯周基本治療1			プラークコントロールの考え方を説明できる。			
12							
13	歯周基本治療2			スクレーピング・ルートプレーニングの理論を説明できる。			
14							
15	歯周外科治療1			歯周外科総論を理解する。歯周外科に用いる器具を説明できる。			
16							
17	歯周外科治療2			ポケット除去手術と歯周形成手術を説明できる。			
18							
19	歯周外科治療3			歯周組織再生誘導法を説明できる。			
20							
21	根分岐部病変と歯内－歯周疾患			根分岐部病変とその処置法を説明できる。			
22							
23	歯周病と咬合治療			外傷性咬合への対処法を説明できる。			
24							
25	インプラント周囲疾患と歯周病			インプラント周囲疾患と歯周病の関係およびインプラント周囲疾患の治療法を説明できる。			
26							
27	最終治療			Supportive Periodontal Therapyを説明できる。			
28							
29	ペリオドンタル・メディスン			歯周治療が全身の健康に果たす役割を説明できる。			
30							

授業科目名	歯内療法学		担当者名	根本 英二			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	1	後期	必修	講義
15							
授業概要	歯髄疾患ならびに根尖性歯周組織疾患の原因および病態形成機構について理解することを目指す。さらに歯内疾患の成立機構と病態に基づいた治療の考え方、診断及び治療法を修得する。						
学習到達目標	象牙質・歯髄の常態、同組織に生じる疾患およびその治療の進め方を理解する。 ① 歯髄の構造と機能を説明できる。 ② 歯髄・根尖性歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。 ③ 歯髄・根尖性歯周組織疾患の症状を説明できる。 ④ 歯髄・根尖性歯周組織疾患の診断および治療法を説明できる。						
評価方法	授業への出席状況を参考にするとともに、筆答試験の成績をもって評価する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	歯内療法の概要			歯髄の構造と機能を説明できる。			
2	歯の痛み			歯の痛みの機序を説明できる。			
3	歯髄疾患の分類			歯髄疾患の特徴を説明できる。			
4	根尖性歯周疾患の分類			根尖性歯周疾患の特徴を説明できる。			
5	歯髄疾患と根尖性歯周疾患の診断と治療法			歯髄疾患と根尖性歯周疾患の症状・処置を説明できる。			
6	歯髄の保存療法			歯髄の保存療法の意義と処置を説明できる。			
7	歯髄の除去療法			歯髄の除去療法の意義と処置を説明できる。			
8	抜髄法			抜髄法の術式を説明できる。			
9	根管治療(1):根管拡大・形成について			根管拡大・形成に用いる器具を説明できる。			
10	根管治療(2):根管治療に用いる薬剤について			根管治療に用いる薬剤を説明できる。			
11	根管治療(3):根管充填について			根管充填の術式を説明できる。			
12	外科的歯内療法			外科的歯内療法の術式を説明できる。			
13	根未完成歯の治療			根未完成歯の術式を説明できる。			
14	変色歯の漂白法			変色歯の漂白法の術式を説明できる。			
15	歯内療法における偶発症			歯内療法における偶発症を説明できる。			

授業科目名	修復学		担当者名	中野 将人			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	1	後期	必修	講義
15							
授業概要	保存修復学の基本的な概念と各種材料性質、特性を学習することによって、歯科衛生士業務の基盤となる知識の習得を図る。						
学習到達目標	最新の科学理論に基づいた対応、最新の機器、材料、薬剤の特徴や使用法について理解し、保存修復学の知識を習得する。						
評価方法	授業への出席状況を参考にするとともに、筆答試験の成績をもって評価する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	保存修復学の概要			保存修復学の概要について説明できる。			
2	歯の保存の種類と診査方法			歯の保存の種類と診査方法について説明できる。			
3	窩洞の種類			窩洞の種類について説明できる。			
4	保存修復学の手技			保存修復学の手技について説明できる。			
5	保存治療の前準備			保存治療の前準備について説明できる。			
6	歯の切削と歯髄保護			歯の切削と歯髄保護について説明できる。			
7	コンポジットレジン修復(1)			コンポジットレジンの基本について説明できる。			
8	コンポジットレジン修復(2)			コンポジットレジンの臨床について説明できる。			
9	ガラスイオノマーセメント修復			ガラスイオノマーセメントについて説明できる。			
10	メタルインレー修復			メタルインレー修復について説明できる。			
11	セラミックインレー修復			セラミックインレー修復について説明できる。			
12	ベニア修復			ベニア修復について説明できる。			
13	合着			合着について説明できる。			
14	ホワイトニング			ホワイトニングについて説明できる。			
15	まとめ			保存修復全体のまとめが理解できる。			

授業科目名	歯科補綴学		担当者名	庄原 健太			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 医歯薬出版株式会社 ・配布資料(プリント)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	1	後期	必修	講義
	30						
授業概要	歯科補綴学における総論的内容を学ぶ。顎口腔機能を理解し、その後続く補綴治療の目的や意義を理解するとともに各補綴治療に必要な診察・検査・診断・治療計画の一連の流れ及び衛生士として役割を学ぶ。						
学習到達目標	歯科補綴学における総論的内容を理解する。顎口腔機能を理解し、各補綴治療の目的や意義、衛生士として役割を説明できる。						
評価方法	出席・レポート・課題取組・発表・試験(1月)の結果を総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	口腔機能系 概要			顎口腔系全般における各組織やその機能について説明できる。			
2	口腔機能系 概要			顎口腔系全般における各組織やその機能について説明できる。			
3	嚥下機能 概要			嚥下運動について説明できる。			
4	嚥下 咬合様式 顎運動 概要			嚥下、咬合様式を顎運動に関連して説明できる。			
5	嚥下 咬合様式 顎運動 概要			嚥下、咬合様式を顎運動に関連して説明できる。			
6	補綴治療に伴う合併症 TMD			補綴治療に伴う合併症について説明できる。			
7	クラウン			クラウンの要件、種類について説明できる。			
8	ブリッジ			ブリッジの要件、種類について説明できる。			
9	部分床義歯 全部床義歯			義歯の要件、種類について説明できる。			
10	クラスプ、アタッチメント、レスト			義歯の構成要素について説明できる。			
11	バー、特殊義歯			義歯の構成要素、特殊義歯について説明できる。			
12	診査、診断			補綴治療の診査診断について説明できる。			
13	クラウンブリッジ治療の流れ			クラウンブリッジ治療の流れを説明できる。			
14	有床義歯治療 診査診断			有床義歯治療の診査診断について説明できる。			
15	全部床義歯 治療の流れ 印象まで			全部床義歯の治療の流れについて説明できる。			
16	全部床義歯 治療の流れ 咬合採得			全部床義歯の治療の流れについて説明できる。			
17	全部床義歯 治療の流れ 装着			全部床義歯の治療の流れについて説明できる。			
18	部分床義歯 治療の流れ			部分床義歯の治療の流れについて説明できる。			
19	インプラント治療の流れ			インプラントの治療の流れについて説明できる。			
20	インプラント メンテナンス			インプラントメンテナンスについて説明できる。			
21	切削研磨			補綴治療における切削研磨について説明できる。			
22	印象全般			補綴治療における印象全般について説明できる。			
23	咬合採得、人工歯			補綴治療における咬合採得、人工歯について説明できる。			
24	技工			補綴治療における技工の必要性について説明できる。			
25	衛生士の役割 クラウンブリッジ 形成まで			クラウンブリッジにおける衛生士の役割について説明できる。			
26	衛生士の役割 クラウンブリッジ 印象から			クラウンブリッジにおける衛生士の役割について説明できる。			
27	衛生士の役割 全部床義歯			全部床義歯における衛生士の役割について説明できる。			
28	衛生士の役割 部分床義歯			部分床義歯における衛生士の役割について説明できる。			
29	患者指導 クラウンブリッジ 印象から			クラウンブリッジの注意点を患者に説明できる。			
30	患者指導 部分床義歯 全部床義歯			可綴装置の注意点を患者に説明できる。			

授業科目名	口腔外科学 I		担当者名	眞柳 みゆき								
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある								
教科書	歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法					
		2										
		時間数	歯科衛生科	1	後期	必修	講義					
授業概要	顎口腔領域の疾患について											
学習到達目標												
評価方法	出席・課題への取り組み・試験の結果を考慮して総合的に判断する。											
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など									
1	口腔外科の概要①		顎・口腔領域の理解を深め、口腔外科の対象とする疾患について学び、口腔外科患者と歯科衛生士のかかわり方を学ぶ									
2	口腔外科の概要②											
3	口腔外科の概要③											
4	顎・口腔領域の先天異常と発育異常① -歯の発育異常-		歯の異常・口唇裂・口蓋裂・顎の変形について理解し治療時における歯科の役割を理解する									
5	顎・口腔領域の先天異常と発育異常② -口唇裂・口蓋裂・顎変形-											
6	顎・口腔領域の損傷および機能障害① -軟組織・歯・歯槽-		軟組織損傷・歯および歯槽の外傷・顎骨骨折・顎関節疾患の病態を理解し治療時の補助法を学ぶ									
7	顎・口腔領域の損傷および機能障害② -顎骨骨折-											
8	顎・口腔領域の損傷および機能障害③ -顎関節疾患-											
9	口腔粘膜疾患① -水泡形成・紅斑・びらんを主徴とする疾患-		顎・口腔領域の各疾患について、病態を理解し、治療法や治療時の補助法を学ぶ									
10	口腔粘膜疾患② -潰瘍・白斑・色素沈着を主徴とする疾患-											
11	口腔粘膜疾患③ -粘膜委縮・口腔乾燥・粘膜の出欠や貧血等を主徴とする疾患-											
12	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患① -炎症とは？歯周組織・顎骨の炎症-											
13	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患② -顎骨周囲組織の炎症-											
14	顎・口腔領域の嚢胞性疾患											
15	顎・口腔領域の腫瘍											
16	顎・口腔領域の腫瘍類似疾患											
17	唾液腺疾患											
18	口腔領域の神経疾患											
19	口腔外科診療の実際① -口腔外科治療の流れ-		診察・検査の目的を理解し、得られた情報をもとにして診断治療が行われる流れを学ぶ									
20	口腔外科診療の実際② -清潔と不潔の認識-		清潔域と不潔域の違い、滅菌と消毒の違いをしっかりと理解する									
21	口腔外科診療の実際③ -創傷の処置、歯の脱臼-		各処置・手術法の流れを理解し、必要な器具を把握し、適切な介助法を学ぶ									
22	口腔外科診療の実際④ -抜歯:普通抜歯-											
23	口腔外科診療の実際⑤ -抜歯:難抜歯・埋伏歯抜歯-											
24	口腔外科診療の実際⑥ -嚢胞摘出術-											
25	口腔外科診療の実際⑦ -歯根端(尖)切除術-											
26	口腔外科診療の実際⑧ -歯槽骨整形術・小帯切除術-											
27	口腔外科診療の実際⑨ -口腔インプラント手術・止血処置-											
28	口腔外科診療の実際⑩ -縫合処置-											
29	復習①							小テストを通して復習をし、理解を深める				
30	復習②											

授業科目名	齲蝕予防法		担当者名	安達 渚			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生士のための齲蝕予防処置法(医歯薬出版) 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	1	後期	必須	演習
	30						
授業概要	齲蝕予防処置法の基礎を学び、齲蝕の早期診断に基づいた管理やその指導ができるよう理解を深める。						
学習到達目標	齲蝕予防処置法に関しての概念・理論を理解し、実践するための基礎的知識と技術を習得する。						
評価方法	期末試験、小テストの結果の総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	齲蝕予防処置法とは			齲蝕予防の手段や水準による分類を理解する。			
2	齲蝕の知識			プラークの成り立ちと齲蝕について理解する。			
3	齲蝕活動性試験			齲蝕活動性試験の種類と方法を理解する。			
4	齲蝕活動性試験実習						
5	齲蝕活動性試験実習結果と考察						
6	位相差顕微鏡による観察			位相差顕微鏡の操作ができる。			
7	早期齲蝕検出ダイアグノデントについて			ダイアグノデントの使用方法を理解し、早期齲蝕の程度を測定できる。			
8	ダイアグノデント実習						
9	フッ化物について・水道水フッリデーションについて			フッ化物の種類と濃度を理解する。			
10	フッ化物の計算方法						
11	フッ化物洗口について			フッ化物洗口について理解する。			
12	フッ化物洗口実習						
13	フッ化ジアミン銀について			フッ化ジアミン銀の使用方法を理解する。			
14	フッ化ジアミン銀実習						
15	フッ化物の濃度について復習			フッ化物塗布方法や手順を理解し、実施することができる。			
16	フッ化物塗布手順と方法について						
17	フッ化物塗布(綿球法・トレー法)実習						
18	"						
19	"						
20	"						
21	小窩裂溝填塞法について			小窩裂溝填塞の方法と手順を理解し実施することができる。			
22	小窩裂溝填塞法模型実習						
23	"						
24	"						
25	小窩裂溝填塞法相互実習						
26	"						
27	"						
28	"						
29	国家試験過去問題・解説			齲蝕予防法について説明できる。			
30	齲蝕予防処置法のまとめ						



授業科目名	歯科予防処置論		担当者名	菊地 千代子・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導法(医歯薬出版株式会社)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
	ポケットマニュアル(医歯薬出版株式会社)	時間数	歯科衛生科	1	通年	必修	講義
30							
授業概要	口腔の基礎知識を学び、齲蝕と歯周病について理解を深め歯科予防処置実施のための基礎知識を学ぶ。						
学習到達目標	歯と口腔内について理解し、歯科予防処置に関する基礎知識を習得する。						
評価方法	筆記試験、提出物、授業態度で総合評価する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	予防処置、保健指導の概要			予防の概念について説明できる。			
2	予防の概念、口腔の名称、歯式			永久歯・乳歯の名称、歯の構造について説明できる。			
3	口腔の基礎知識、口腔・口腔周囲の構造			歯周組織の構成要素について説明できる。			
4	歯周組織、口腔の機能、摂食・嚥下			口腔の機能について説明できる。			
5	う蝕と歯周病の基礎知識、口腔内の付着物・沈着物			プラークと歯石の成分が説明できる。			
6	う蝕と歯周病の基礎知識、口腔内の付着物・沈着物			う蝕の進行による分類について説明できる。			
7	う蝕と歯周病の基礎知識、口腔内の付着物・沈着物			歯肉炎と歯周病の違いについて説明できる。			
8	歯科衛生アセスメント・情報収集・情報整理			歯科衛生アセスメントについて理解する。			
9	口腔内の付着物・沈着物、エキスポローラの操作			エキスポローラ・プローブの操作について理解できる。			
10							
11	歯科衛生介入としての歯科予防処置・スケーリング			シクルスケーラの操作方法を理解する。			
12							
13	ポジショニング・ミラーテクニック・3運動			術者のポジッションについて理解する。			
14				ミラー操作と3運動について理解する。			
15	まとめ・復習						
16	歯面研磨について			歯面研磨の目的、操作手順を理解できる。			
17	相互実習の手順、滅菌・消毒方法			相互実習の手順について理解する。			
18				滅菌・消毒の方法について理解する。			
19							
20	顎模実習のための人工歯石塗布			顎模型上に人工歯石を塗布する。			
21							
22	パワー(機械的)スケーラー・歯面清掃機の操作			パワースケーラーの原理、操作方法を理解する。			
23				特徴、利点、欠点、禁忌について理解する。			
24				目的、使用器材、方法を理解する。			
25	シャープニング実習			シクルスケーラーのシャープニングを実施する。			
26							
27							
28							
28	感染対策について			感染予防対策について理解する。			
29							
30	まとめ・復習						

授業科目名	歯科予防演習 I		担当者名	横山さゆり・菊地千代子 安達渚・永沼由香・星 仁美・石塚 悠希			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・ 歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		時間数					
授業概要	歯科衛生過程を展開するうえで必要な予防処置について、科学的根拠に基づいた知識と安全に医療を行うための技術を学ぶ。						
学習到達目標	1. 歯科衛生業務について理解する。2. 正常な歯、歯周組織について述べるができる。3. シックルスクレーラーを適切に使用できる 3. 歯周組織検査の手技を理解し適切に行うことができる。4. 予防処置業務を安全に実施することができる5. 実施する際の偶発事故に対する防止と対応ができる。						
評価方法	筆記試験、提出物、授業態度で総合評価する						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1			スクレーラーの正しい把持方を実践できる。				
2	スクレーラーの基本操作		スクレーラーの3つの運動を理解し実践できる。				
3			スクレーラーの3つの運動を理解し実践できる。				
4	マネキン操作・ポジショニング		マキシラアングル、ヘッドローテーションが理解できる。				
5			模型上でエクスプローラー・プローブの操作ができる。				
6	エクスプローラー・プローブの基本操作(顎模型演習)						
7							
8							
9	シックルスクレーラーの部位別操作(上顎前歯部)顎模型演習		模型上でシックルスクレーラーを部位別に操作できる。				
10							
11	シックルスクレーラーの部位別操作(下顎前歯部)顎模型演習		模型上でシックルスクレーラーを部位別に操作できる。				
12							
13	シックルスクレーラーの部位別操作(下顎右側臼歯部)顎模型演習		模型上でシックルスクレーラーを部位別に操作できる。				
14							
15	シックルスクレーラーの部位別操作(下顎左側臼歯部)顎模型演習		模型上でシックルスクレーラーを部位別に操作できる。				
16							
17	シックルスクレーラーの部位別操作(上顎右側臼歯部)顎模型演習		模型上でシックルスクレーラーを部位別に操作できる。				
18							
19	シックルスクレーラーの部位別操作(上顎左側臼歯部)顎模型演習		模型上でシックルスクレーラーを部位別に操作できる。				
20							
21	シックルスクレーラー操作実技試験について		実技試験の詳細について。				
22	シックルスクレーラーの部位別操作(復習)		全顎についてポジショニング・手技を復習。				
23	シックルスクレーラーの部位別操作(復習)						
24	シックルスクレーラーの部位別操作(復習)						
25	シックルスクレーラーの部位別操作(復習)						
26	シックルスクレーラーの部位別操作(復習)						
27	シックルスクレーラーの部位別操作(復習)						
28	シックルスクレーラーの部位別操作(復習)						
29	シックルスクレーラーの部位別操作(復習)						
30	まとめ						

31	歯面研磨歯面清掃	目的、種類、使用器材、操作方法が理解できる。
32	歯面研磨 バキューム（マネキン実習）	歯面研磨の操作を実践することができる。
33	ユニット操作、操作方法、ポジショニング（マネキン実習）	正しいポジショニングを実施できる。
34	エキスポローリング・プロービング（マネキン実習）	エキスポローリング・プロービング操作を実践できる。
35	1. 口腔内洗浄 プロービング（相互実習）	ウォーキングプロービングを実践することができる。
36		診査表に正しく記入することができる。
37		
38		
39	2. スケーリング① 上下顎前歯部（相互実習）	部位に応じたスケーリング操作ができる。
40		感染対策予防が実施できる。
41		
42		
43	3. スケーリング② 下顎臼歯部（相互実習）	部位に応じたスケーリング操作ができる。
44		感染対策予防が実施できる。
45		
46		
47	4. スケーリング③ 上顎臼歯部（相互実習）	部位に応じたスケーリング操作ができる。
48		感染対策予防が実施できる。
49		
50		
51	5. パワースケーラー・歯面清掃機（マネキン実習）	パワースケーラーの使用目的、特徴が理解できる。
52		パワースケーラーで歯石除去が実践できる。
53		歯面清掃器の使用目的、特徴が理解できる。
54		歯面清掃器で歯面清掃が実践できる。
55	6. 染めだし 歯面研磨（相互実習）	PMTCの目的が理解できる。
56		PMTCの手順を遵守し、実践できる。
57		感染対策予防が実施できる。
58		
59	復習・まとめ	
60	復習・まとめ	

授業科目名	歯科保健指導法 I		担当者名	横山さゆり・菊地千代子 永沼由香・安達渚・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・ 歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		3					
		時間数	歯科衛生科	1	通年	必修	講義
授業概要	歯科保健指導の定義・基礎を学び、各ライフステージにおけるプロフェッショナルケアとセルフケアについて学習する。また歯科保健に関する社会的ニーズに対応するため、専門的な理解を深める。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科保健指導の定義を説明できる。</li> <li>・各種ブラッシング方法を説明できる。</li> <li>・歯磨剤、洗口剤、補助的清掃用具の種類と特徴、適応を説明できる。</li> <li>・歯科保健指導に必要な知識・技術を習得し、ライフステージごとの歯科保健指導を理解する。</li> <li>・口腔および全身状態に合った歯科保健指導を習得する。</li> </ul>						
評価方法	定期試験、提出物、授業態度、出席日数						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	歯科保健指導とは			保健指導の意義と特性を理解する。			
2	歯科保健指導の概念						
3	食生活・う蝕誘発指数について（甘味料）			食品とう蝕の関連性を説明できる。			
4	口腔内の作図			う蝕のリスク因子を知り、自身の歯科疾患予防について理解する。			
5	口腔の観察（唾液流出量・RDテスト・パフテスト）						
6	ハブラシについて（目的・条件・名称・刷毛部・毛先・管理等）			口腔衛生管理用具の選択と使用法を説明できる。			
7	毛先を使ったブラッシング方法						
8	脇腹を使ったブラッシング方法						
9	歯間清掃用具について（デンタルフロス）						
10	歯間清掃用具について（歯間ブラシ）						
11	歯磨剤・洗口剤について			歯磨剤・洗口剤の選択と使用法の指導ができる。			
12	歯垢染色剤・各種歯ブラシについて（電動・音波・超音波）						
13	染め出し・デンタルフロス（実習）			染めだし、デンタルフロスなど、口腔衛生管理用具の使用法と説明ができる。			
14	染め出し・デンタルフロス（実習）						
15	まとめ			確認テストを行い、自身の学習の習熟度を図る。			
16	口腔清掃指数について① 1)PCR 2)OHI 3)OHI-S			口腔清掃状態の指標を理解し、検査ができる。			
17	口腔清掃指数について② 4)PII 5)PHP 6)PMA □						
18	口腔清掃指数について③ 8)GI 9)CPI						
19	口腔清掃指数について③ 7)PI 8)GI 9)CPI						
20	プレテスト						
21	口腔観察実習（PCR算定）						
22	口腔観察実習（PCR算定）						
23	う蝕活動性試験結果に基づくTBIの検討（カリオスタット）			対象者の情報をもとに、口腔清掃指導計画ができる。			
24	ライフステージにおける歯科衛生士の介入（妊産婦期）			各ライフステージごとの一般的特徴と、口腔の特徴を理解し、保健行動を説明できる。			
25	ライフステージにおける歯科衛生士の介入（新生児・乳児期）						
26	ライフステージにおける歯科衛生士の介入（幼児期）						
27	ライフステージにおける歯科衛生士の介入（ " ）						
28	事例検討（ワークショップ）						
29	ライフステージにおける歯科衛生士の介入（学齢期）						
30	ライフステージにおける歯科衛生士の介入（ " ）						

31	ライフステージにおける歯科衛生士の介入(青年期)	各ライフステージごとの一般的特徴と、口腔の特徴を理解し、保健行動を説明できる。
32	ライフステージにおける歯科衛生士の介入(成人期)	
33	ライフステージにおける歯科衛生士の介入(食生活指導)	
34	ライフステージにおける歯科衛生士の介入(老年期)	
35	要介護高齢者の歯科保健指導	配慮を要する者に対する、口腔清掃法と口腔管理に必要な知識・技術を習得する。
36	要介護高齢者・障がい有する者の歯科保健指導	
37	要介護高齢者の歯科保健指導実習(エナック)	
38	要介護高齢者の歯科保健指導実習(スポンジブラシ)	
39	プレテスト	確認テストを行い、自身の学習の習熟度を図る。
40	対象集団指導の考え方	小児に対する適切な仕上げ磨きができる。
41	小児に対するブラッシングについて	
42	小児に対するブラッシングについて(実習)	
43	指導計画(健康教育)のプランニングについて	健康教育に必要な情報を収集できる。
44	指導計画のプランニングについて(ワークショップ)	健康教育の計画・立案ができる。
45	まとめ	

授業科目名	歯科診療補助法 I		担当者名	横山さゆり・菊地千代子 永沼由香・安達渚・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 (医歯薬出版株式会社)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		5					
		時間数	歯科衛生科	1	通年	必須	講義
75							
授業概要	歯科診療補助の業務体系や法的位置づけを学び、歯科医療の現場で必要とされる感染予防、薬品管理、環境整備について理解を深める。 歯科診療で取り扱う材料の種類・用途・取り扱いについて学ぶ。						
学習到達目標	歯科診療補助の概念を理解し、その業務における医療安全・感染予防・歯科診療室の基礎知識を理解する。 歯科診療で扱う歯科材料について理解し、取り扱いをすることができる。						
評価方法	期末試験、小テストの総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	歯科診療補助の概念・法的位置づけ			歯科診療補助の業務内容と法的解釈を説明できる。			
2	"						
3	医療安全(インシデント・アクシデント)			インシデント・アクシデントを理解する。			
4	感染予防対策			スタンダードプレコーションを理解し、その対策について説明できる。			
5	感染予防対策						
6	手指消毒演習・グローブ試着						
7	滅菌と消毒						
8	ハイリスク患者の器材器具の取り扱い・医療廃棄物						
9	歯科診療における受診の流れ(事務的作業等)			歯科診療所における患者対応を理解する。			
10	診査用器材の名称用途・薬品の管理方法			薬品・材料の適切な管理が説明できる。			
11	歯科診療室の環境・歯科用ユニットの構造・機能			歯科診療室の環境、設備について説明できる。			
12	歯科用ユニットの操作方法						
13	術者・補助者・患者のポジショニング・ライティング			適切なポジショニングを実施できる。			
14	術者・補助者・患者のポジショニング・ライティング						
15	器具の受け渡し			器具の取り扱いや受け渡しを実施できる。			
16	バキューム・スリーウェイシリンジの目的			バキューム・スリーウェイシリンジの目的を理解する。			
17	まとめ(国家試験問題形式)・解説			歯科衛生材料の用途を理解し、作成することができる。			
18	"						
19	衛生用品の作成方法と用途						
20	歯科材料・ブローチ綿栓の作成			正しいバキューム操作を理解する。			
21	"						
22	"						
23	バキューム操作(ファントーム)			ユニット清掃方法を理解する。			
24	"						
25	"						
26	ユニット掃除方法			相互でのバキューム操作ができる。			
27	バキューム操作(相互実習)						
28	"						
29	"						
30	まとめ・試験範囲等						

31	印象材・歯科用石膏の特徴・種類・用途	印象材・歯科用石膏の特徴・種類・用途が説明できる。 印象材・歯科用石膏の練和と管理ができる。
32	アルジネート印象材の取り扱い	
33	模型にてアルジネート印象材での上下印象採得	
34	アルジネート印象材で下顎印象採得(相互) 石膏注入	
35		
36		
37	アルジネート印象材で上顎印象採得(相互) 石膏注入	
38		
39		
40	その他の印象材・ワックスの種類	
41	咬合採得相互実習	
42	模型台付け	
43	寒天印象材の取り扱いと診療補助 石膏注入	
44		
45		
46	ゴム質印象材の取り扱いと連合印象の手順	
47		
48		
49	合着剤・接着剤について	合着材・接着材の特徴・種類・用途を説明できる。 合着材・接着剤の取り扱いができる。
50	各合着材の練和実習・接着剤の取り扱いについて	
51		
52	仮封材の特徴・種類・用途について	仮封材の特徴・種類・用途を説明できる。 仮封材の取り扱いができる。
53	仮封材の取り扱い・模型を使用した実習	
54		
55	成形歯冠修復の補助について	直接修復の手順と取り扱い器具の名称と用途を説明することができる。
56	コンポジットレジン・ガラスアイオノマー充填の取り扱いと手順	
57		
58	歯肉圧排薬材の取り扱い(ジンパック)	歯肉圧排法と手順について説明できる。
59	義歯調整材料の取り扱い	義歯調整材料について説明できる。
60	歯科麻酔時の診療補助	歯科麻酔の特徴を説明できる。
61	ラバーダム防湿法について	ラバーダム防湿の目的と器具の用途について説明できる。 ラバーダム防湿を実施できる。
62	ラバーダム防湿の手順(ファントム)	
63		
64		
65	ラバーダム防湿相互実習	
66		
67	アルジネート印象 (相互実習 総復習)	アルジネート印象採得を実施できる。
68		
69		
70	アルジネート印象実技試験	
71		
72	セメント練和・仮封実技試験	
73	アルジネート自動練和器の取り扱いについて	アルジネート自動練和器を操作することができる。
74		
75	後期のまとめ	

授業科目名	臨地実習 I		担当者名	横山さゆり・菊地千代子・ 永沼由香・星 仁美・安達渚			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	テキストなし	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	1	後期	必須	実習
45							
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科医院での治療の流れや臨床における歯科衛生士の役割を学ぶ。</li> <li>・実習生としての基本的態度を身につける。</li> </ul>						
学習到達目標	臨床現場における歯科衛生士の役割について習得し、治療の流れを理解する。						
評価方法	実習状況						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
	<b>実習期間</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園・幼稚園 (3時間×1日間)</li> <li>・ 社会福祉施設 (4時間×1日間)</li> <li>・ 歯科医院 (7時間×6日間)</li> </ul>						



授業科目名	情報学		担当者名	川村 浩之			
			実務経験				
教科書	情報リテラシーと処理技術 学生のためのofficeスキル 活用&情報モラル	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	1	前期	必修	講義
15							
授業概要	情報活用の基礎となる情報手段や情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法について理解を深めます。そして、生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響、情報モラルの必要性や情報に対する責任について学習します。また、パソコンの基本操作、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本操作を学習します。						
学習到達目標	情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身につける。						
評価方法	レポート・小テスト・および授業態度						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	情報化社会とは、ICT活用のポイント、SNSなど			情報化社会の特徴と活用について理解する。			
2				個人情報の取り扱いなどの情報化社会でのモラルについて理解する。(実習や講義)			
3	情報化社会の問題点、著作権、個人情報の保護、ルールとマナー、ネットコミュニケーション			受け手の気持ちや考えを尊重してコミュニケーションができる。			
4				情報発信に責任を持ち、適正な情報が発信できる。			
5	医療従事者が扱う情報の重要性			医療系学生が触れる「個人情報」について理解する。			
6	オンライン授業のトラブルで生じる責任 ・法的な責任 ・倫理的な責任			オンライン授業での情報漏洩、肖像権の侵害について理解する。			
7	ソーシャルメディアとの適切なつきあい方 ・ブログ等			SNSへの投稿時に注意すべき点について理解する。			
8	Windowsの基本操作			Windows10の構成やタスクバー、エクスプローラーなどアプリ(ソフトウェア)について理解する。			
9	ワープロソフトの基本操作①			文字入力の基本も含めて、Word2016の基本操作を理解する。			
10	ワープロソフトの基本操作②			論文作成の基本を理解する。			
11	表計算ソフトの基本操作			Excel2016の基本操作を理解する。			
12				PowerPoint2016の基本操作を理解する。			
13	プレゼンテーションソフトの基本操作			「多職種連携」のプレゼンテーション作成。			
14							
15	まとめおよびレポート作成						

授業科目名	コミュニケーション論		担当者名	尾形 由美子			
			実務経験	看護師として病院勤務の経験がある			
教科書	教科書は指定しない 配布物(プリント)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	1	前期	必修	講義
15							
授業概要	医療・福祉の現場では、患者やスタッフ間のコミュニケーション不全により、医療事故を引き起こす可能性も高く、円滑なコミュニケーションは医療安全のためのリスクマネジメントとしても外すことのできない課題であり医療接遇は重要であることを理解する。						
学習到達目標	医療接遇力やコミュニケーション能力を身に着ける。						
評価方法	筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	コミュニケーションの目的			コミュニケーションのしくみが理解できる。			
2	コミュニケーション能力とは			コミュニケーションの基本が理解できる。			
3	基本的な言語的・非言語的コミュニケーション			言語以外のコミュニケーションについて理解できる。			
4	自己覚知とは			グループワーク「自分を知る」			
5	伝える力・聞く力を身に着ける			敬語や丁寧語が使えるようになる。			
6	分かりやすい話し方のポイント			報告連絡相談の必要性を理解できる。			
7	言葉遣い 敬語・謙譲語・丁寧語			言葉の使い方を理解できる。			
8	医療接遇とは 接遇の五原則			挨拶と第一印象の大切さを理解できる。			
9	言葉遣い 専門用語・クッション言葉			言葉の使い方を理解できる。			
10	電話対応の仕方			社会人としての対応ができる。			
11	多職種連携に必要なコミュニケーション			記録における情報の共有化について理解できる。			
12	報告連絡相談の必要性について			重要性について理解できる。			
13	はがきの書き方			一般常識を理解できる。			
14	手紙の書き方			一般常識を理解できる。			
15	まとめ						

授業科目名	社会口腔学		担当者名	笹井 真澄			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 保健生態学 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	2年	前期	必修	講義
		15					
授業概要	口腔衛生学Ⅰを修了していることを前提として、全身および歯科疾患に関連する環境の整備や疾病の予防、健康増進にかかわる各種用語の定義や法律について学ぶ。また、周術期および災害時の歯科の役割について理解する。						
学習到達目標	健康を左右する環境および個人を対象とした口腔の健康と予防について理解し、集団を対象とする地域保健活動のあり方、他職種と歯科衛生士とのかわりについて理解する。また、周術期および災害時の歯科の役割について理解する。						
評価方法	出席率および前期期末考査の結果などを総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	健康を左右する環境について・総論			健康や予防医学の概念を説明できる。			
2	疫学・人口			疫学の定義や人口の動態などについて説明できる。			
3	健康と環境・感染症・食品と健康			感染症や食品保健について説明できる。			
4	Ⅰ編総復習			健康を左右する環境について総合的に理解する。			
5	歯・口腔健康と予防・総論			口腔衛生学の定義や歯・口腔構造について説明できる。			
6	歯科疾患疫学			う蝕や歯周病の疫学について説明できる。			
7	口腔清掃			口腔清掃について(歯磨剤等の用具を含め)説明できる。			
8	う蝕の予防			う蝕の発生要因から予防方法(フッ化物を含め)を説明できる。			
9	歯周疾患の予防			歯周疾患の症状から予防手段と処置について説明できる。			
10	Ⅱ編総復習			歯・口腔の健康と予防について総合的に理解する。			
11	健康にかかわる地域の役割・地域保健・公衆衛生			地域社会と地域保健の概念や組織、健康づくり対策などについて説明できる。			
12	母子保健・学校保健・成人保健			母子保健、学校保健、成人保健の概要について説明できる。			
13	産業保健・高齢者保健・精神保健			産業保健、高齢者保健、精神保健の概要について説明できる。			
14	災害時の歯科保健・国際保健			大規模災害時の保健医療対策や被災地での歯科保健活動について説明できる。			
15	Ⅲ編総復習			地域保健について総合的に理解する。			

授業科目名	公衆衛生学		担当者名	塩田 千尋			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 保健生態学 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	2	後期	必修	講義
	30						
授業概要	衛生学、公衆衛生学の概念、方法論の基礎を学ぶ。環境諸要因が個人・集団の健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め、疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等、保健予防・医療に関する知識を習得する。また、公衆衛生活動の様々な実践活動を学び、人々の健康を守るための組織、機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。						
学習到達目標	人々の歯や口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な教育的役割や、地域における関係諸機関等との調整能力を養う内容、ならびに、口腔衛生学、公衆衛生学、衛生行政・社会福祉および関係法規等を理解する。また、健康を左右する環境について理解し、次いで個人を対象とした口腔健康と予防について理解する。そして集団を対象とする地域保健活動の在り方と、他の職種と歯科衛生士とのかかわりについて理解を深める。						
評価方法	学期末の筆記試験により評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	総論			健康の定義、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの概要を理解する。			
2	疫学			疫学の定義、疫学研究方法を理解する。			
3							
4	人口			人口の現状と推移の概要を理解する。			
5							
6	健康と環境			環境の重要性を理解したうえで、人間・環境・健康のそれぞれのかかわりを理解する。			
7	感染症			感染症の概念および感染成立の三要因を学び、感染予防・流行防止対策について理解する。			
8							
9	食品と健康			食中毒、食品保健の概念について理解する。			
10							
11	地域保健・公衆衛生			生活と健康、地域社会と保健対策の概念を理解する。			
12	母子保健			母子保健の概念、妊産婦および乳幼児の歯科保健について理解する。			
13	成人・老人保険			成人・老人保健について理解し、その具体的な活動について学ぶ。			
14	学校保健			学校歯科保健を中心に学校保健の概念について理解する。			
15	精神保健			精神保健の定義を理解する。			
16	産業保健			職業性疾患、保健管理、保健活動について理解する。			
17	国際保健			国際社会におけるわが国の保健活動内容、先進国と発展途上国での健康格差を理解する。			
18	社会的決定要因、アップストリームの介入			健康増進法・歯科口腔保健法、社会的決定要因について学ぶ。			
19	エビデンスレベルと交絡			エビデンスや交絡について理解する。			
20	復習・疫学			復習			
21	復習・人口			復習			
22	復習・健康と環境			復習			
23	復習・感染症			復習			
24	復習・食品と健康			復習			
25	復習・食品と健康			復習			
26	復習・地域保健、母子保健			復習			
27	復習・成人・老人保健、学校保健			復習			
28	中間テスト						
29	中間テスト答え合わせ			質疑応答授業			
30	予備講義、試験前対策						

授業科目名	歯周病学Ⅱ		担当者名	根本 英二			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯周病学(医歯薬出版) 歯科衛生士のためのインプラントメンテナンス(医歯薬出版)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		時間数					
		1					
		15					
授業概要	歯周病の原因と分類、歯周基本治療と歯周外科治療の目的や術式について学ぶ。						
学習到達目標	歯周病の原因と進展機序を理解し、歯周治療の術式およびメンテナンス・SPTについて正しく説明できる。						
評価方法	筆記試験による成績評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	歯周病学概論(1)			歯周基本治療の概略について説明できる。			
2	歯周病学概論(2)						
3	歯周疾患の分類			歯周疾患の分類について理解できる。			
4	歯周疾患の診査			歯周組織検査法、歯周病診断について理解できる。			
5	歯周治療の流れ(1)			歯周治療の流れについて説明できる。			
6	歯周治療の流れ(2)						
7	歯周外科概論(1)			歯周外科治療について理解できる。			
8	歯周外科概論(2)			歯周外科治療の流れについて説明できる。			
9	歯周外科各論(1)			歯周外科治療に用いる器具を説明できる。			
10	歯周外科各論(2)						
11	再生療法(1)			歯周組織再生誘導法を説明できる。			
12	再生療法(2)						
13	歯周歯内病変			歯周歯内病変の分類について理解できる。			
14	歯周外科介助			歯周外科治療時の介助について理解できる。			
15	インプラント治療の概要			インプラント治療の原理と流れを説明できる。			

授業科目名	口腔外科学Ⅱ		担当者名	下田 元・山内 健介・森島 浩允			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 医歯薬出版株式会社、 配布資料(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	2	後期	必修	講義
30							
授業概要	口腔外科学、歯科麻酔科学、救急処置法、心肺蘇生法に関する理論、実践の基礎を学び、医療従事者の一員として、歯科口腔外科および歯科麻酔科臨床に際し、患者の健康増進、安心、安全な全身管理、救急処置に関する知識、対応力を深める。						
学習到達目標	全般的、系統的な救急処置法、心肺蘇生法の修得、および全身的基礎疾患の病態把握を基盤に、歯科口腔外科診療で起こり得る局所的・全身的偶発症、合併症の要因、機序を理解し、口腔外科、歯科麻酔科臨床に当たり患者の全身管理、急変時の対応力を修得する。						
評価方法	筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	バイタルサインの見方			臨床的意義と評価法を理解する。			
2	血圧測定法、呼吸心拍監視(心電図など)			理論と臨床応用を理解する。			
3	酸素療法、静脈路確保法			理論と臨床応用を理解する。			
4	心肺蘇生法:BLS(一次救命処置)(1)			BLSの理論と基本手技を修得する。			
5	心肺蘇生法:BLS(一次救命処置)(2)			BLSの理論と基本手技を修得する。			
6	歯科口腔外科の局所麻酔法			局所麻酔薬、血管収縮薬の種類、作用、局所麻酔臨床を理解する。			
7	歯科口腔外科診療時の局所的・全身的偶発症、救急処置法			血管迷走神経反射、過換気症候群などの発現機序、症状を理解し、救急対処法を実践する。			
8	全身的基礎疾患を有する歯科口腔外科患者の全身管理(1)			全身的基礎疾患の病態、症状を理解し、適切な術前評価、周術期管理を実践する。			
9	全身的基礎疾患を有する歯科口腔外科患者の全身管理(2)			全身的基礎疾患の病態、症状を理解し、適切な術前評価、周術期管理を実践する。			
10	全身的基礎疾患を有する歯科口腔外科患者の全身管理(3)			全身的基礎疾患の病態、症状を理解し、適切な術前評価、周術期管理を実践する。			
11	感染症患者の全身管理			ウイルス感染症などの病態を理解し、適切な全身評価・ケア、感染予防対策を実践する。			
12	精神鎮静法の理論と実際(1)			亜酸化窒素吸入鎮静法の理論と臨床を修得し、患者ケアを実践する。			
13	精神鎮静法の理論と実際(2)			静脈内鎮静法の理論と臨床を修得し、患者ケアを実践する。			
14	全身麻酔法(1):術前管理			術前の血液生化学、心電図、呼吸機能検査などの基礎を理解し、全身評価に繋げる。			
15	全身麻酔法(2):術中、術後管理			全身麻酔法の理論と臨床手技を修得し、周麻酔期管理、歯科麻酔科臨床の患者ケアを実践する。			
16	全身麻酔法(3):歯科口腔外科領域の周麻酔期管理の特殊性、特異性			歯科口腔外科周麻酔期、歯科麻酔科臨床の特殊性、特異性を理解し、合併症の防止、対処法を適			
17	血液疾患、出血性素因を有する患者の全身管理			病態を理解し、適切な術前評価、全身管理を実践する。			
18	口腔顎顔面領域の神経疾患、発育異常、先天異常			病態を理解し、適切な術前評価、全身管理を実践する。			
19	口腔顎顔面症状を呈する全身疾患			全身疾患と口腔顎顔面症状の密接な関連性、病態を理解する。			
20	心肺蘇生法、患者急変時の対処法実習			BLS、救急処置を円滑、適切に実践する。			
21	インプラントの基本構造			インプラントの基本構造を理解する。			
22	インプラント治療の診断と計画			診断から計画までの流れを説明できる。			
23	インプラントの適応症と禁忌症			適応症と禁忌症を述べられる。			
24	インプラントと周囲組織			インプラントと周囲軟組織の特徴を説明できる。			
25	インプラント埋入手術			インプラント埋入手術の術式を説明できる。			
26	インプラント関連手術			インプラント関連手術の内容を説明できる。			

27	インプラントの合併症	合併症を理解し、説明できる。
28	インプラントの上部構造	上部構造の種類を挙げられ、説明できる。
29	メンテナンス	メンテナンスの必要性を理解し、説明できる。
30	インプラント周囲炎とその対応	インプラント周囲炎の病態を理解し、対応についても説明できる。

授業科目名	歯科矯正学		担当者名	安野 梢			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	2	前期	必修	講義
30							
授業概要	歯科矯正学の成り立ちを理解し、それに基づく歯科矯正学の定義や、知識と概念、治療の必要性、ベネフィットとリスク、患者中心の医療とチーム医療、歯科衛生士の役割について学習する。また、不正咬合の定義と特徴、一般的な治療の流れを理解し、臨床の現場における歯科衛生士の業務内容や役割について理解を深める。						
学習到達目標	歯科矯正学の概念と知識を理解し、矯正治療における不正咬合の特徴と治療の流れ、チーム医療における歯科衛生士の役割を理解し修得する。						
評価方法	出席・試験の結果を総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	歯科矯正学の概要			矯正歯科治療の目的、需要と必要性、ベネフィットとリスク、チーム医療との関係について説明できる。			
2							
3	成長発育			身体および頭蓋、顎顔面の成長発育、歯・歯列の成長発育、口腔機能の発達について説明できる。			
4							
5	正常咬合と不正咬合			正常咬合と不正咬合について、不正咬合の原因と予防について説明できる。			
6							
7	矯正歯科診断			矯正歯科治療における診断、検査について、症例の分析および非拔牙治療と拔牙治療について説明できる。			
8							
9	矯正歯科治療と“力” -矯正力・顎整形力・保定-			歯の移動と固定、移動に伴う組織反応、歯の移動様式について、矯正力と顎整形力、保定について説明できる。			
10							
11	矯正装置			可撤式矯正装置、固定式矯正装置、機能的矯正装置、拡大装置、顎外固定装置、口腔習癖除去装置、保定装置について説明できる。			
12							
13	上下顎の前後的關係の不調和 成人矯正 口腔顎顔面の形成異常と変形			I 級、II 級1類、II 級2類、III 級不正咬合および I 級不正咬合の治療について、過蓋咬合と開咬、その治療について、補助的・包括的矯正歯科治療、成人矯正歯科治療、口唇・口蓋裂、先天異常、顎変形症について説明できる。			
14							
15							
16	歯の埋伏と歯数の異常 矯正歯科治療時のトラブルへの対応 健康保険が適用される矯正歯科治療 矯正歯科診療時の業務			埋伏歯、先天欠如歯、過剰歯について、う蝕、歯肉炎、歯周疾患、歯根吸収、顎関節症アレルギー、トラブルへの対応について、健康保険が適用される治療について、検査の補助、質問表・検査、インフォームドコンセントについて説明できる。			
17							
18							
19	矯正歯科診療時の業務			矯正歯科用器具・材料の準備と取り扱いについて、可撤式矯正装置装着時、固定式矯正装置装着時の補助と指導について説明できる。			
20							
21							
22	矯正歯科診療時の業務 矯正歯科患者と口腔保健管理			機能的矯正装置装着時、上顎側方拡大装置装着時、顎外固定装置装着時の補助と指導について、患者へのアプローチ、口腔衛生管理、矯正装置の説明と保健指導の要点について説明できる。			
23							
24							
25	口腔筋機能療法(MFT) 器具、資料、文書の管理			口腔筋機能療法、口腔周囲組織のアセスメント、MFTの指導計画、用いる器具、指導法、口腔習癖の改善、MFTの効果について、器具、資料、文書の管理について説明できる。			
26							
27							
28	国家試験対策 練習問題						
29							
30	まとめ						



授業科目名	小児歯科学		担当者名	齋藤 幹			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	2	前期	必修	講義
30							
授業概要	小児の心身ならびに顎顔面・口腔の正常な発育を学び、小児における口腔疾患に対する処置法を理解する。						
学習到達目標	小児歯科臨床に必要な発育評価や特徴的な疾患等の一連の知識を習得し、年齢に合わせた問題点を抽出し、対応ができる。						
評価方法	出席状況、履修態度、筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	小児歯科概論			小児歯科の特徴と目的を説明できる。			
2	発育の原則と発育期の分類			発育の概念と原則を説明できる。			
3	心身の発育状態の評価			発育状態を評価する方法を説明できる。			
4	小児の生理的特徴			大人と小児の生理的な違いを説明できる。			
5	顔面頭蓋の発育			顔面頭蓋の発育の特徴や様式を説明できる。			
6	歯の発育とその異常			歯の発育過程と、異常の原因を説明できる。			
7	歯の発育時期と萌出異常			歯の発育・萌出時期を説明できる。			
8	歯の形態と形成異常			歯の形成異常の原因を説明できる。			
9	歯列・咬合の発育と変化			各歯列期の臨床的特徴を説明できる。			
10	歯列・咬合の異常			歯列・咬合異常の原因を説明できる。			
11	口腔習癖と不正咬合			口腔習癖と不正咬合の関連を説明できる。			
12	小児に見られる齲蝕の原因			う蝕のメカニズムについて説明できる。			
13	小児に見られる齲蝕の特徴			乳歯齲蝕の特徴を説明できる。			
14	小児に見られる歯周疾患			小児の歯肉炎・歯周炎を説明できる。			
15	小児に見られる口腔軟組織の異常と疾患			小児期の口腔粘膜疾患を説明できる。			
16	小児期の特徴と問題点			小児虐待の現状・種類を説明できる。			
17	小児歯科における患者との対応法			各小児期の特徴と問題点を説明できる。			
18	小児歯科における診療体系			各小児期に応じた対応法を説明できる。			
19	小児の歯冠修復			小児歯科診療の特徴を説明できる。			
20	小児の歯内療法			歯科衛生士の役割を説明できる。			
21	幼若永久歯の特徴			齲蝕予防について指導ができる。			
22	小児の外科処置			小児の修復について概説できる。			
23	小児の咬合誘導			小児の歯内療法について概説できる。			
24	フッ化ジアミン銀と定期診査			幼弱永久歯の特徴について説明できる。			
25	主な障害とその全身的・歯科的特徴			小児特有の外科処置について説明できる。			
26	障害児への対応			小児期の咬合誘導について説明できる。			
27	小児の摂食・嚥下障害			定期診査の必要性について説明できる。			
28	診察・検査時における歯科衛生士の役割			障害児への対応法を説明できる。			
29	齲蝕予防における歯科衛生士の役割			小児に対する齲蝕予防法を説明できる。			
30	小児歯科診療における診療			小児歯科診療室の特徴を説明できる。			

授業科目名	障害者歯科学		担当者名	齊藤 峻			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 (医歯薬出版) 配布資料(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		時間数					
		1	歯科衛生科	2	前期	必修	講義
授業概要	歯科診療を行う上で困難とされる障害者に対して、様々な障害の種類と特有の口腔内所見に関する知識を深く理解すること。様々な行動調整法を学び、適応行動学ぶこと。摂食機能障害に対して適切な摂食機能療法を学ぶこと。						
学習到達目標	障害者に対して、医療的、社会的、共感的理解を深めること。障害の種類とその口腔内所見や合併症を学ぶこと。行動調整法を学び、実践できるようになること。口から食べる機能の向上を目指す摂食機能療法を習得すること。						
評価方法	学期末試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	障害の概念			スペシャルニーズおよび障害者の概念、ICF、ノーマライゼーションなどについて説明できる。			
2	スペシャルニーズの発生とその受容、障害のある人と医療・福祉			Drotarらの障害受容段階説を説明できる。障害福祉の歴史などを説明できる。			
3	歯科医療で特別な支援が必要な疾患(知的障害)			ダウン症候群、レッシュナイハン症候群などの対応と口腔の特徴を説明できる。			
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患(知的障害)			広汎性発達障害などの対応と口腔の特徴を説明できる。			
5	歯科医療で特別な支援が必要な疾患(身体障害)			脳性麻痺、重症心身障害などの対応と口腔の特徴を説明できる。			
6	歯科医療で特別な支援が必要な疾患(身体障害)			筋ジストロフィー、脊髄損傷、関節リウマチ、ALSなどの対応と口腔の特徴を説明できる。			
7	歯科医療で特別な支援が必要な疾患(身体障害)			骨形成不全症、二分脊椎、感覚障害などの対応と口腔の特徴を説明できる。			
8	歯科医療で特別な支援が必要な疾患(精神障害)			統合失調症、うつ病、てんかんなどの対応と口腔の特徴を説明できる。			
9	障害者の歯科医療と行動調整(1)			コミュニケーションの方法、行動療法などについて説明できる。			
10	障害者の歯科治療と行動調整(2)			体動のコントロール、鎮静法、全身麻酔法などについて説明できる。			
11	健康支援と口腔衛生管理			本人自身、介助者が行う口腔ケア、専門的口腔ケアなどについて説明できる。			
12	リスク評価と安全管理			障害者の全体的リスク管理の評価、服用薬物の相互作用、感染対策などについて説明できる。			
13	摂食嚥下リハビリテーション			障害者の摂食機能障害の評価法などについて説明できる。摂食機能療法などについて説明ができる。			
14	地域における障害者歯科障害者歯科			障害者に対して地域医療連携、多職種との連携、チーム医療の形態などを説明できる。			
15	障害者歯科における歯科衛生過程			障害者歯科における歯科衛生業務で歯科衛生過程などを活用できる。			

授業科目名	高齢者口腔保健学		担当者名	伊藤 佳彦			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 (医歯薬出版)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	2	前期	必修	講義
15							
授業概要	高齢者における歯科保健・医療・福祉に関する特徴を解説する。口腔ケアや摂食・嚥下リハビリテーションをはじめとした、高齢者への歯科衛生士の関わり方を解説する。						
学習到達目標	疾病を持つ高齢者の全身・精神・顎口腔の特徴を把握すると共に、高齢者の歯科医療の機能と役割・援助法について理解する。摂食・嚥下のメカニズムを理解し、リハビリテーションへのアプローチを行い、高齢者のセルフケアとQOLを高める歯科的援助について総合的に考える。						
評価方法	出席、期末試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	高齢社会と健康			高齢社会の特徴を説明できる。			
2	高齢者にかかわる法制度			高齢者にかかわる法律を説明できる。			
3	介護保険制度			介護保険制度の概要を説明できる。			
4	高齢者の施設 ・ 身体に加齢変化			高齢者施設の種類とその相違を説明できる。			
5	加齢に伴う全身的な変化			高齢者の身体機能の老化について説明できる。			
6	口腔・咽頭領域の加齢変化			加齢に伴う各器官の老化について説明できる。			
7	うつ・せん妄 高齢者に多い全身疾患			高齢者とのコミュニケーションにおいて配慮すべき点について説明できる。			
8	高齢者に多い全身疾患			認知症の中核症状、周辺症状について説明できる。			
9	高齢者に特有な口腔疾患			高齢者の多くみられる口腔疾患について説明できる。			
10	高齢者の生活機能評価			高齢者の日常動作を評価する方法を説明できる。			
11	バイタルサイン 高齢者の栄養状態			高齢者の身体状態、栄養状態の評価方法について説明できる。			
12	高齢者の薬物服用 口腔ケア			口腔ケアに影響する高齢者の特徴について説明できる。			
13	要介護高齢者への口腔ケア			要介護高齢者の口腔機能の特徴、口腔ケアの手法を説明できる。			
14	摂食・嚥下リハビリテーション			摂食嚥下リハビリテーションの概要を説明できる。			
15	介護予防 訪問診療			在宅医療制度の概要を理解し、在宅における歯科衛生士の役割について説明できる。			

授業科目名	歯科材料学		担当者名	齋藤 正寛			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	2	前期	必修	講義
15							
授業概要	歯科用材料の基本的な概念と各種材料性質、特性を学習することによって、歯科衛生士業務の基盤となる知識の習得を図る						
学習到達目標	歯科材料全般について理解し、知識を習得する						
評価方法	出席・授業態度・試験の結果を総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	歯科材料の基礎知識(1)			歯科材料の基本的な物性について説明できる。			
2	歯科材料の基礎知識(2)			歯科材料の基本的な物性について説明できる。			
3	歯科材料の基礎知識(3)			歯科材料の基本的な物性について説明できる。			
4	歯科衛生に関わる材料			歯科衛生に関わる機材について説明できる。			
5	印象材について			歯科用印象材について説明できる。			
6	模型用材料について			歯科用模型用材料について説明できる。			
7	合着材・接着剤について			歯科用合着材・接着剤について説明できる。			
8	コンポジットレジンについて			コンポジットレジンについて説明できる。			
9	ガラスアイオノマーセメントについて			ガラスアイオノマーセメントについて説明できる。			
10	仮封材について			歯科用仮封材について説明できる。			
11	暫間修復材と仮着セメントについて			暫間修復材と仮着セメントについて説明できる。			
12	鋳造修復用材料について			鋳造修復用材料について説明できる。			
13	セラミックスについて			歯科用セラミックスについて説明できる。			
14	その他の歯科材料			その他の歯科材料について説明できる。			
15	まとめ			歯科材料全体のまとめが理解できる。			

授業科目名	臨床検査法		担当者名	菅原 由美子			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 臨床検査 医薬出版株式会社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	2	前期	必修	講義
15							
授業概要	医療現場において歯科衛生士に必要な臨床検査の基本的知識を習得し、臨床検査データに基づく有病患者への対応を理解する。						
学習到達目標	臨床検査の基礎知識を学び、各種検査データにおける正常値・異常値の解釈と有病患者の全身状態を理解する。						
評価方法	出席および期末試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	臨床検査と歯科衛生士の役割(臨床検査についての総論)			臨床検査の目的・種類・結果の解釈を説明できる。			
2	生理機能検査① バイタルサインにかかわる基本の検査			生理機能検査(バイタルサイン)を説明できる。			
3	生理機能検査② 心機能検査			生理機能検査(心機能検査)を説明できる。			
4	生理機能検査③ 肺機能検査と閉塞性睡眠時無呼吸の検査			生理機能検査(肺機能検査)を説明できる。			
5	血液学的検査 (血液の役割・赤血球・白血球の検査)			血液学的検査の基本を説明できる。			
6	出血・凝固系検査			出血と血液凝固の検査を説明できる。			
7	感染症① 微生物学的検査			感染症の微生物学的検査を説明できる。			
8	感染症② 血液学的検査と主な感染症の検査			感染症の血液学的検査等を説明できる。			
9	肝機能の検査			肝機能の検査を説明できる。			
10	腎機能の検査			腎機能の検査を説明できる。			
11	糖尿病の検査、代謝・内分泌疾患の検査			糖尿病、代謝・内分泌疾患の検査を説明できる。			
12	免疫・血清学的検査、アレルギー検査			免疫とアレルギー検査について説明できる。			
13	自己免疫疾患の検査、輸血の検査、悪性腫瘍の検査			自己免疫疾患・輸血・悪性疾患の検査を説明できる。			
14	病理学的検査			病理検査を説明できる。			
15	口腔領域の検査(唾液分泌速度の検査・味覚検査・他)			全身疾患と関連する口腔領域の検査を説明できる。			

授業科目名	歯科放射線学		担当者名	飯久保 正弘			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 第3版(学健書院)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	2年	前期	必修	講義
15							
授業概要	歯科における放射線の正しい利用法を学ぶ						
学習到達 目標	歯科用エックス線撮影の補助が正しくできるようになる。 患者に対し、放射線の正しい知識を説明できるようになる。						
評価方法							
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	エックス線の基礎知識			放射線とエックス線の基本的知識を理解する。			
2	エックス線の発生			エックス線の発生について説明できる。			
3	歯科用エックス線撮影装置			歯科用エックス線装置のこうぞうを理解する。			
4	エックス線写真の成り立ち			エックス線写真の成り立ちについて理解する。			
5	放射線の体にあたえる影響			放射線の人体への影響について理解する。			
6	放射線防護			放射線防護の理念と実際を理解する。			
7	歯科用エックス線撮影法(二等分法)			口内法と口外法エックス線撮影のそれぞれの特徴 について理解する。			
8	歯科用エックス線撮影法(咬翼法、咬合法)						
9	歯科用エックス線撮影法(断層撮影法)						
10	歯科用エックス線撮影法(パノラマ撮影法)						
11	口内法エックス線の読影			口内法におけるエックス線画像を説明できる。			
12	歯科用エックス線撮影法(口外法)			口外法におけるエックス線画像を説明できる。			
13	放射線治療			放射線治療の方法を理解する。			
14	様々な画像診断			様々なエックス線画像を説明できる。			
15	口腔と全身(画像診断を中心に)			エックス線画像における疾患を指摘できる。			

授業科目名	歯科予防演習Ⅱ		担当者名	横山さゆり・菊地千代子 永沼由香・安達渚・星 仁美・石塚 悠希			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 歯周病学 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		時間数					
授業概要	歯肉縁下のスクレーリングについて学び、メンテナンスおよびSPTへ関連づけができる。						
学習到達目標	1. キュレットスクレーラーについて理解する。2. 安全にグレーシータイプスクレーラーを操作することができる。3. 口腔ケアの手法を安全に行うことができる。						
評価方法	実技試験, 筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	復習小テスト			1年時の履修内容について理解できる。			
2	歯科衛生科介入としての歯科予防処置			SRPの目的について理解できる。			
3	グレーシー型キュレットスクレーラーの基本操作			キュレットスクレーラーの操作について理解できる。			
4	操作部位ごとの使用するスクレーラー・ポジショニングについて			部位別スクレーラーのNOを説明できる。			
5	0度挿入について			0度挿入について理解できる。			
6							
7	キュレットスクレーラーの基本操作 模型実習(上下顎前歯部)			部位ごとにスクレーラーを適切に操作ができる。			
8							
9	キュレットスクレーラーの基本操作 模型実習(下顎右側臼歯部)			部位ごとにスクレーラーを適切に操作ができる。			
10							
11	キュレットスクレーラーの基本操作 模型実習(下顎左側臼歯部)			部位ごとにスクレーラーを適切に操作ができる。			
12							
13	キュレットスクレーラーの基本操作 模型実習(上顎右側臼歯部)			部位ごとにスクレーラーを適切に操作ができる。			
14							
15	キュレットスクレーラーの基本操作 模型実習(上顎左側臼歯部)			部位ごとにスクレーラーを適切に操作ができる。			
16							
17	実技試験について 各部位の復習操作						
18							
19	キュレットスクレーラーの実技試験			マネキンを使用し、指示された部位を正確に操作することができる。			
20							
21							
22	相互実習手順の確認			相互実習の流れについて説明できる。			
23							
24	プロービング操作 相互実習			プロービングの必要性と目的について理解できる			
25				患者に配慮した診査ができる。			
26				診査結果を正確に記録できる。			
27				診査結果と口腔内状況を関係づけることができる。			
28	キュレットスクレーラーの基本操作・PTC 相互実習			患者に配慮したスクレーラー操作ができる。			
29	(上顎前歯部)			感染対策を行い施術部位を確認しながら操作できる。			
30				患者の立場を理解できる。			
31				術者、患者に配慮したアシスタントワークができる。			
32	キュレットスクレーラーの基本操作・PTC 相互実習			患者に配慮したスクレーラー操作ができる。			
33	(下顎前歯部)			感染対策を行い施術部位を確認しながら操作できる。			
34				患者の立場を理解できる。			
35				術者、患者に配慮したアシスタントワークができる。			
36	キュレットスクレーラーの基本操作・PTC 相互実習			患者に配慮したスクレーラー操作ができる。			
37	(下顎右側臼歯部)			感染対策を行い施術部位を確認しながら操作できる。			
38				患者の立場を理解できる。			
39				術者、患者に配慮したアシスタントワークができる。			

40	キュレットスケーラーの基本操作・PTC 相互実習 (下顎左側臼歯部)	患者に配慮したスケーラー操作ができる。 感染対策を行い施術部位を確認しながら操作できる。 患者の立場を理解できる。 術者、患者に配慮したアシスタントワークができる。
41		
42		
43		
44	キュレットスケーラーの基本操作・PTC 相互実習 (上顎右側臼歯部)	患者に配慮したスケーラー操作ができる。 感染対策を行い施術部位を確認しながら操作できる。 患者の立場を理解できる。 術者、患者に配慮したアシスタントワークができる。
45		
46		
47		
48	キュレットスケーラーの基本操作・PTC 相互実習 (上顎左側臼歯部)	患者に配慮したスケーラー操作ができる。 感染対策を行い施術部位を確認しながら操作できる。 患者の立場を理解できる。 術者、患者に配慮したアシスタントワークができる。
49		
50		
51		
52	プロービング操作 相互実習	SRP後のプロービングの必要性と目的を理解できる。 患者に配慮した診査ができる。 診査結果を正確に記録できる。 診査結果と口腔内状況を関係づけることができる。
53		
54		
55		
56	PMTc 相互実習	患者に配慮した歯面清掃の操作ができる。 術者、患者に配慮したアシスタントワークができる。
57		
58		
59	復習 まとめ	
60	復習 まとめ	



授業科目名	歯科保健指導法Ⅱ		担当者名	永沼 由香・横山 さゆり 菊地 千代子・安達 渚・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・ 歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		3					
		時間数	歯科衛生科	2	通年	必修	演習
90							
授業概要	ライフステージごとの特徴や指導のポイントを押さえ、小集団に対する歯科保健指導を展開し実施する。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ライフステージにおいて、望ましい歯科保健指導を実施できる。</li> <li>口腔および全身状態に合った歯科保健指導を習得する。</li> <li>集団に対する伝達方法を説明できる。</li> <li>各ライフステージにおいて、望ましい歯科保健指導を実施できる。</li> <li>口腔および全身状態に合った歯科保健指導を習得する。</li> <li>幼児期の保護者に対し歯科保健指導のプレゼンテーションができる。</li> </ul>						
評価方法	定期試験、提出物、授業態度、出席日数						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	乳幼児・幼児の口腔の特徴について			幼児期における歯科保健指導法について理解し、計画・立案ができる。			
2	小集団指導法について						
3	幼児の保健指導の具体例について						
4	幼児の保健指導計画および指導案作成						
5	媒体を使用したの集団指導案作成①						
6	媒体を使用したの集団指導案作成②						
7	媒体を使用したの集団指導案作成③						
8	媒体を使用したの集団指導案作成④						
9	媒体を使用したの集団指導案作成⑤						
10	媒体を使用したの集団指導案作成⑥						
11	指導媒体作り			対象年齢に応じた、集団歯科保健指導用視覚媒体を作成することができる。			
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							

37	指導媒体作り	対象年齢に応じた、集団歯科保健指導用視覚媒体を作成することができる。
38		
39		
40		
41		
42		
43		
44		
45		
46	小集団指導(幼児期)(模型を使った指導)(1)	小集団指導法の特徴を述べることができる。 小集団に対する歯科保健指導ができる。
47	小集団指導(幼児期)(模型を使った指導)(2)	
48	小集団指導(幼児期)(模型を使った指導)(3)	
49	小集団指導(幼児期)(模型を使った指導)(4)	
50	小集団指導(幼児期)(模型を使った指導)(5)	
51	小集団指導(幼児期)(模型を使った指導)(6)	
52	小集団指導(幼児期)(模型を使った指導)(7)	
53	小集団指導発表	
54	小集団指導発表	
55	行動変容に関する理論	行動変容のステップを理解する。
56	行動変容を促す理論の実践	行動変容理論を活用できる。
57	禁煙指導について	禁煙指導と支援ができる。
58	周術期の口腔ケア	専門的口腔ケアを理解する。
59	災害歯科	災害時の医療システムについて理解する。
60	まとめ	
61	染め出し相互実習 1)PCR 2)DI	口腔衛生管理状態が説明できる。 口腔清掃方法の選択と指導ができる。
62	〃	
63	〃	
64	乳幼児の虫歯のメカニズムについて	う蝕罹患型に応じた歯科保健指導の要点を列挙できる。
65	乳幼児歯科健康診断に用いる診断方法 1) 1.6歳児	
66	乳幼児歯科健康診断に用いる診断方法	
67	1～3歳児の保護者向けを想定したプレゼン(PP使用)	スライド(PPT)を使用し、課題内容に沿ったプレゼンテーションすることができる。
68	〃	
69	〃	
70	〃	
71	〃	
72	〃	
73	〃	
74	指導案発表 (パワーポイント)	摂食嚥下リハビリテーションを理解する。
75	指導案発表 (パワーポイント)	
76	口腔機能の種類	
77	直接訓練法について	口腔機能低下に応じた機能評価を理解する。
78	間接訓練法について	
79	口腔機能の評価	
80	口腔機能の評価	配慮を必要とする人への口腔管理法を理解し、実施することができる。
81	嚥下体操とは	
82	嚥下体操の方法	
83	配慮を要する人の口腔ケアの方法 (講義)	口腔機能低下に応じた機能向上プログラムを行うために必要な基礎を学ぶ。
84	配慮を要する人の口腔ケアの方法 (実習)	
85	配慮を要する人の口腔ケアの方法 (実習)	
86	嚥下体操指導について	
87	嚥下体操指導(計画・立案)	
88	嚥下体操指導案 (指導内容)	
89	嚥下体操指導案 (指導内容)	
90	嚥下体操指導案 発表	

授業科目名	歯科診療補助法Ⅱ		担当者名	飯久保 正弘・永沼 由香・横山 さゆり 菊地 千代子・安達 渚・星 仁美			
			実務経験	歯科医師として病院勤務経験がある 歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論(医歯薬出版株式会社)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
	イラストと写真でわかる 歯科材料の基礎(永末書店)	時間数					
授業概要	各種治療の手順や準備器材、各年齢層に対する対応方法、全身疾患をもつ患者における診療についてを学ぶ。						
学習到達目標	歯科治療を円滑に進めるために治療の手順を理解し、適切な器具の準備ができる。 全身疾患を持つ患者の口腔内の特徴や対応法を理解する。						
評価方法	期末試験、小テストの総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	歯式の記載方法について			歯式の記録を取ることができる。			
2	歯式相互実習						
3	直接修復用器材の手順と準備物の取り扱い(コンポジットレジン)			保存修復治療の手順に沿った器材を準備することができる。			
4	// 歯牙模型窩洞への充填(手順・準備物確認)						
5	間接修復用器材の手順と準備物の取り扱い(メタルインレー)			補綴治療の手順に沿った器材を準備することができる。			
6	補綴治療用器材の準備と取り扱い(歯冠修復)						
7	補綴治療用器材の準備と取り扱い(全部床義歯)						
8	補綴治療用器材の準備と取り扱い(部分床義歯)			全身疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる。			
9	全身疾患について(対応と口腔内の状況)						
10							
11	歯内療法用器材の準備と取り扱い(歯髄保存療法)			歯内療法の手順に沿った器材を準備することができる。			
12	歯内療法用器材の準備と取り扱い(歯髄除去療法・根管充填)						
13	小児・障害者歯科の準備物と対応方法(レストレイナー実演)			小児歯科治療の器材を準備することができる。			
14							
15	ホワイトニングについて			漂白方法の種類と薬剤、注意点が説明できる。			
16	放射線の撮影法の種類・自動現像機での現像について			画像検査法とその補助について説明できる。			
17	口腔外科小手術器材の準備と取り扱い			口腔外科治療の手順に沿った器材を準備することができる。			
18							
19	歯科矯正治療時の準備と取り扱い			矯正歯科治療の手順に沿った器材を準備することができる。			
20	各種プライヤーの名称と用途						
21	矯正装置の種類と装着上の注意点						
22	エックス線写真撮影の補助とトレース			画像検査の方法を理解する。			
23							
24							
25							
26							
27	臨床検査(項目と標準値)			臨床検査の目的と各検査方法について説明できる。			
28	ユニットでのバイタルサインの測定						
29	まとめ(国家試験形式問題)と解説			各種治療の手順と準備物を説明できる。			
30							

授業科目名	保育・食育学		担当者名	工藤愛美・和泉安希子			
			実務経験	(工藤)保育士として保育園勤務の経験がある			
教科書	・配布資料(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	2	前期	必修	演習
	30						
授業概要	<p>・乳幼児を中心とした子どもや保護者、子どもにかかわる施設について理解する。          ・保健指導の視点から、子どもとの適切な関わり方を学ぶ。</p> <p>心身の健康の増進と豊かな人間形成には健全な食生活が重要である。本講義では、各世代における食育の重要性と食生活のあり方、口腔環境との密接な関わりについて講義する</p>						
学習到達目標	<p>子どもの発達や背景にある保護者の思いを捉え、職業人として適切な対応ができることを目標とする。また、乳幼児施設における保健指導の実践力を身につける。</p> <p>食育の重要性を知り、歯科保健と健康教育・栄養教育の関連性について理解を深め、歯科衛生士としての資質向上を図る</p>						
評価方法	前期末試験における成績評価・授業態度、課題提出、試験の総合評価(試験70%、授業態度等30%)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	幼稚園・保育園について			各施設の相違点と保育士、幼稚園教諭の仕事内容、子どもの発達特徴について理解する。			
2	子どもの発達について						
3	児童文化財(絵本・紙芝居)について			幼児集団に対する保健指導での対応や話法、教材の使用などを理解し、伝達の技術を習得する。			
4	歯科指導に関する教材作成①(台本作り)						
5	歯科指導に関する教材作成②(下絵描き)						
6	"						
7	歯科指導に関する教材作成③(色塗り)						
8	"						
9	"						
10	保育教材の演じ方・見せ方			乳幼児や保護者を支援する専門職に求められていることについて理解を深める。			
11	保育教材の実践練習						
12	保育教材の導入と終わり方			健康を支えるものは何か。			
13	子どもの発達とその関わり方						
14	職業理解からみる保護者対応			『食育』の意義について理解する。			
15	保育施設における歯磨き指導とそのポイント						
16	小児栄養と食生活の意義①			現代の食生活の問題点を把握する。			
17	小児栄養と食生活の意義②						
18	食からはじまる健やかな生活			栄養を理解する。			
19	食べることと子供の成長①						
20	食べることと子供の成長②			献立・食品群と栄養素の関係を理解する。			
21	栄養と食事①						
22	栄養と食事②						
23	栄養と食事③						
24	栄養と食事④						
25	栄養と食事⑤			食物アレルギーについて学ぶ。			
26	アレルギーと食事						
27	身体の健康①			健康と食生活の関連性について、代表的な疾病別に理解を深める。			
28	身体の健康②						
29	身体の健康③						
30	身体の健康④ まとめ						

授業科目名	リハビリテーション学		担当者名	小嶋 麻由佳 ・ 小笠原祥太 ・ 相澤祐一			
			実務経験	(小嶋)理学療法士として病院勤務の経験がある (相澤・小笠原)作業療法士として病院勤務の経験がある			
教科書	・配布資料 (プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	2	後期	必修	講義
15							
授業概要	リハビリテーションの定義や障害に対する考え方を学ぶ。高齢者や脳血管障害の特徴や注意点、日常生活を支援する器具について学びリハビリテーションへの理解を深める。						
学習到達目標	リハビリテーションの視点や専門性を学び、職業への理解を深める。						
評価方法	筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	リハビリテーションの定義と理念			定義と理念について説明できる			
	障害とQOL			障害の考え方について説明できる			
	チームアプローチについて			医療・福祉の多職種連携について説明できる			
2	廃用症候群とは			廃用症候群について理解し説明できる			
3	姿勢と褥瘡			褥瘡の原因と除圧について説明できる			
4	脳血管障害とリハビリテーション			片麻痺の特徴と症状を説明できる			
5	高齢者と介護保険			高齢者の特徴と介護保険の仕組みを説明できる			
6	歯科と精神疾患			歯科と精神疾患の臨床的繋がりを説明できる			
7	精神障害関連：疾患(統合失調症・気分障害)			統合失調・気分障害の概要を説明できる			
8	精神障害関連：疾患(神経症圏・摂食障害)			神経症圏・摂食障害の概要を説明できる			
9	精神障害関連：疾患(認知症)			認知症の概要を説明できる			
10	コミュニケーション			様々なコミュニケーションについて考え、実践する			
11	行動原理			人間の行動原理について考え、様々な行動と現任について説明できる			
12	DHとPT・OTが関わる症例の紹介。			チームアプローチにおけるPT/OTの役割を知る			
13	作業療法における陶芸活動について			陶芸の成形と焼成を実践する。			
14	作業療法における陶芸活動について			陶芸の釉掛けを実践する。			
15	作業療法における陶芸活動について			陶芸の治療的効果を説明できる。			

授業科目名	介護技術学		担当者名	尾形 由美子			
			実務経験	看護師として病院勤務の経験がある			
教科書	介護福祉養成テキスト 生活支援具術Ⅰ・Ⅱ 介護福祉士養成施設協会	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	2	後期	必修	講義
15							
授業概要	・介護活動の場としての「在宅」や「施設」の介護の特性を理解し、高齢者や障害者に対して歯科衛生士として地域や福祉の役割を担う一員であることを理解する。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術を通して、介護の意義や目的を理解する。</li> <li>・他の福祉専門職との連携及び地域における社会的役割を学ぶ。</li> <li>・事故予防・感染対策について対応できる知識を学ぶ。</li> </ul>						
評価方法	出席率・授業態度・試験・レポートから総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション 医療と介護の連携における歯科衛生士の取り組みについて			歯科衛生士の役割について理解できる			
2	移動の意義と目的 移動方法(車椅子操作)			移動動作の方法、声かけについて理解できる車いす操作ができる、ユニットへの移乗			
3	視覚障がい者の理解			アイマスク、白杖使用で学内・学外を歩行してみる。			
4	視覚障害者の介護(演習)ハンディキャップ体験			ユニットへの移乗 体験レポート提出あり			
5	安楽な体位と褥瘡の予防			褥瘡の好発部位、原因について理解できる			
6	体位変換について(演習)			ファーラー位、側臥位が理解できる			
7	ファーラー位、側臥位の仕方(マヒあり)、歩行介助(マヒあり)			体験レポート提出あり			
8	認知症の原因疾患と症状について 認知症介護についてのDVD鑑賞			認知症とは、それに伴う行動・心理症状 認知症のイメージを深める			
9	清潔の意義と目的 清潔の介護の実際			清潔行為について理解する			
10				入浴・清拭等の方法			
11	食事介護の意義と目的 食事の介護に必要な知識			生活における食事とは 食事行動の特徴を理解する			
12	胃ろう、経鼻経管栄養の実際			模型人形で理解する			
13	排泄の意義と目的 (トイレ・ポータブル・便尿器)			排泄方法と目的、効果について理解できる プライバシーに配慮した排泄介護			
14	身じたくの自立に向けた支援			更衣の必要性を理解できる			
15	身じたくの意義と目的			麻痺の着脱方法			

授業科目名	臨地実習Ⅱ		担当者名	横山さゆり・菊地千代子 永沼由香・安達 渚・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	テキストなし	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		9					
		時間数	歯科衛生科	2	通年	必修	実習
	405						
授業概要	1年次や2年次前期で得た知識を応用し、実践的な知識と技術を学ぶ。 歯科医院や大学病院・保健センター・老健施設での実習を行うことにより、 さまざまな場所での歯科衛生士が必要とされる知識・技術を学ぶ。						
学習到達目標	臨床現場における歯科衛生士の役割を理解し、知識・技術を実践的に実施することができる						
評価方法	実習状況						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	実習期間						
・	・ 保育園・幼稚園 2日間						
90	・ 歯科医院 11日間						
91	・ 東北大学病院 7日間						
・	・ 歯科医院 31日間						
・	・ 保健センター 1日間						
315	・ 社会福祉施設 6日間						
	・ 重度心身障がい者施設 1日						

授業科目名	臨床総合演習 I		担当者名	横山さゆり・菊地千代子・永沼由香・安達 渚・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	テキストなし	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	2	後期	必修	演習
30							
授業概要	実習事前準備の学習・レポート作成を行う。						
学習到達目標	さまざまな臨床施設における歯科衛生士の役割を理解する						
評価方法	筆記試験・実技試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	大学病院の位置づけ・取り組みについて 各科の特徴的な診療について 終末期・周術期の取り組みについて			各診療科の特徴を理解し、診療に必要な知識を身に付ける			
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11	校内模擬試験						
12							
13							
14							
15							
16							
17	施設実習前準備			摂食嚥下評価について理解する			
18	摂食嚥下評価について						
19							
20	模擬患者実習の事前見学・発表聴講			模擬患者実習について理解する			
21							
22	片麻痺患者に対する作業療法アプローチ。作業療法理論について			作業療法の治療理論を説明できる			
23	片麻痺患者に対する作業療法アプローチ。家事動作の獲得について			片麻痺での家事を体験しアプローチを実践する			
24	片麻痺患者に対する作業療法アプローチ。家事動作の獲得について			片麻痺での家事を体験しアプローチを実践する			
25							
26	実技試験練習（器具の準備物・印象採得・PTC）						
27							
28							
29	実技試験						
30							



授業科目名	解剖学Ⅱ		担当者名	市川 博之			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
	解剖学・組織発生学・生理学	1					
	口腔解剖学・口腔組織発生学・ 口腔生理学(医歯薬出版)	時間数 15	歯科衛生科	3	前期	必修	講義
授業概要	本科目は1年次に履修した口腔解剖学と同じ教科書を用い、より深いレベルでの理解を求める。よって各回の講義を迎える前には、各自で1年次の口腔解剖学の復習を行ってから臨む事を推奨する。						
学習到達目標	歯科衛生士に必要な基礎医学の1分野として解剖学を修得する。主に口腔領域と関係する骨・粘膜・筋肉・脈管・神経および歯に対して形態的、組織的、生理的に理解する。						
評価方法	出席状況、授業態度、適宜行われる小テスト、筆記試験などにより総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	口腔付近の表面・口腔前庭(口唇・頬・歯肉)			左記内容について理解し、実践問題に対応できる実力をつける。			
2	固有口腔(口蓋・口腔底・舌)						
3	唾液腺・咽頭の構造						
4	頭蓋の概要・頭蓋を構成する骨①						
5	頭蓋を構成する骨②						
6	頭頸部の筋と作用①						
7	頭頸部の筋と作用②・顎関節						
8	口腔付近に分布する脈管系(動脈系)						
9	口腔付近に分布する(静脈系・リンパ系)						
10	口腔付近に分布する神経系①(脳神経 前半)						
11	口腔付近に分布する神経系②(脳神経 後半)						
12	口腔付近に分布する神経系③(自律神経)						
13	歯の形態(総論)						
14	永久歯と乳歯						
15	特色ある歯の形態・歯列と咬合						

授業科目名	衛生統計学		担当者名	笹井 真澄			
			実務経験	歯科医師として病院勤務の経験がある			
教科書	衛生統計学 —口腔保健統計を含む— (学健書院)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	3	前期	必修	講義
15							
授業概要	歯科衛生統計に用いられる各種指標について学び、その指標の意義を理解する。						
学習到達目標	衛生統計に用いる各指標についてその定義を理解し、実際に計算を必要とするものについては計算をできるようになる。その上で各指標の結果が何を意味するのかを説明できるようになる。						
評価方法	出席率および前期期末考査の結果などを総合評価						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	口腔衛生学の意義		口腔と健康、歯・口腔の発育の変化について理解する。				
2	口腔衛生学の意義		口腔環境、歯・口腔の不潔について理解する。				
3	口腔清掃		口腔清掃、プラークコントロールについて理解する。				
4	口腔衛生学の意義と口腔清掃の総復習		ここまでの本講義内容の確認をする。				
5	う蝕の予防		DMF歯数など用いてう蝕の有病状況について理解する。				
6	う蝕の予防		う蝕の発生要因からフッ化物の応用について理解する。				
7	歯周病の予防		歯周病の有病状態や分類を理解する。				
8	歯周病の予防		歯周病の発生要因や予防方法を理解する。				
9	その他の歯科疾患の予防		不正咬合をはじめその他の歯科疾患の予防を理解する。				
10	う蝕と歯周病とその他の歯科疾患の予防の総復習		ここまでの本講義内容の確認をする。				
11	歯科疾患の疫学と歯科保健統計		疫学の概論と様々な指標について理解する。				
12	歯科疾患の疫学と歯科保健統計		衛生統計の基礎や歯科保健統計について理解する。				
13	地域歯科保健活動		口腔保健を推進する基本的事項について理解する。				
14	歯科疾患の疫学と歯科保健統計の総復習		ここまでの本講義内容の確認をする。				
15	本講義のまとめ		本講義内容の知識の理解を確認する。				

授業科目名	衛生行政・社会福祉学		担当者名	森 明人			
			実務経験				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関 人と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数					
		30	歯科衛生科	3	後期	必修	講義
授業概要	衛生行政・社会福祉・社会保険の法と制度について、歴史的変遷と現状を学ぶ。高齢化の進展に伴い、地域における保健・医療・福祉サービスの包括的な提供体制の構築が進められている。本講義においては、制度の歴史に関する知識を習得するとともに、現状の制度と機能、そしてそれらを実態的に運営する各種専門職の役割等についての知識を習得する。						
学習到達目標	衛生行政・社会福祉・社会保険の法制度と機能について、歴史と現状を理解し、説明することができる。また、地域における保健・医療・福祉サービスの包括的提供体制構築に係る最近の動きについても理解を深め、説明することができる。						
評価方法	出席・レポート・試験の結果を総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	わが国の社会保障制度の成り立ち			日本の社会保障制度の成り立ちと今日の社会保障の分類について説明できる。			
2	社会保障の目標と機能			社会保障の目標と機能について説明できる。			
3	社会保障費の給付と国民の負担			社会保障費の負担と給付について説明できる。			
4	ライフステージ別の社会保障制度①			生涯を通じた社会保障についての概要を理解するとともに、周産期・小学校入学前までに関わる制度について説明できる。			
5	ライフステージ別の社会保障制度②			学校教育・就労期・高齢期に関わる制度について説明できる。			
6	海外の社会保障制度			海外(イギリス・ドイツ・フランス・スウェーデン・アメリカ)の社会保障制度の要点について説明できる。			
7	衛生行政の目的			衛生行政の役割、目的、特色について説明できる。			
8	衛生行政の沿革			明治憲法下および現憲法下の衛生行政の概要について説明できる。			
9	衛生行政の組織①			衛生行政の組織(国際機関・国・地方公共団体)について説明できる。			
10	衛生行政の組織②			衛生行政の組織(保健所・市町村保健センター、地域包括支援センター等)について説明できる。			
11	地域保健に関する法①			地域保健に関する法(地域保健法、健康増進法、母子保健法)の要点について説明できる。			
12	地域保健に関する法②			地域保健に関する法(学校保健安全法、労働安全衛生法、高齢者の医療の確保に関する法)の要点について説明できる。			
13	食品安全、食育に関する法			食品衛生法、食品表示法、食育基本法の要点について説明できる。			
14	国民医療費			国民医療費の概要と現況について説明できる。			
15	社会保険の沿革			社会保険の成り立ちと今日の制度の概要について説明できる。			
16	社会保険行政の組織			国および地方レベルの社会保険行政組織について説明できる。			
17	医療保険制度と法①			医療保険制度の概要および給付について説明できる。			
18	医療保険制度と法②			医療保険制度の費用負担と種類について説明できる。			

19	年金制度と法①	年金保険の概要について説明できる。
20	年金制度と法②	国民年金、厚生年金保険、その他の年金について説明できる。
21	雇用保険・労働者災害補償保険制度と法	雇用保険および労災保険の概要について説明できる。
22	介護保険制度と法①	介護保険制度の概要について説明できる。
23	介護保険制度と法②	介護サービスの種類、利用手続き等について説明できる。
24	社会福祉の沿革	社会福祉の成り立ちについて説明できる。
25	社会福祉行政の組織	国レベルおよび県、市町村レベルの社会福祉行政組織について説明できる。
26	社会福祉の担い手	社会福祉を担う専門職やボランティアについて説明できる。
27	生活保護制度と法	生活保護制度の基本原則、実施原則、種類等について説明できる。
28	児童と家庭の福祉制度と法	児童・家庭に係る福祉の概要について説明できる。
29	障害者の福祉制度と法	障害者の福祉に係る基本理念、支援策について説明できる。
30	高齢者の福祉制度	高齢者に係る福祉・保健制度について説明できる。

授業科目名	歯周予防演習Ⅲ		担当者名	横山さゆり・菊地千代子 永沼由香・安達 渚・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 配布物(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数					
		30					
授業概要	歯周疾患の基礎的内容について理解し、歯科衛生業務を行うための知識と技術を再確認し安全に配慮した行動がとれる。						
学習到達目標	1. 歯周治療の流れについて理解し、歯科衛生過程を用いて歯科衛生介入を実施することができる。 2. 歯周治療における歯科衛生士の役割が理解できる。						
評価方法	筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	復習 小テスト						
2	復習 小テスト解説						
3	メンテナンスの重要性とその意義について			歯周治療の流れについて説明できる。			
4				メンテナンスの目的、方法および評価を説明できる。			
5	模擬患者実習について			模擬患者実習の手順について理解できる。			
6	問診・歯周組織検査・歯面研磨(相互実習)			歯科衛生アセスメントに必要な情報収集ができる。			
7				患者に配慮した診査ができる。			
8				診査結果から歯科衛生計画立案ができる。			
9				計画立案に基づいた介入ができる。			
10	PCR・TBI・歯面研磨(相互実習)			患者に配慮した手技ができる。			
11				業務記録をSOAP形式で書くことができる。			
12							
13							
14	パワー(機械的)スケーラー(相互実習)			超音波スケーラーとエアースケーラーを適正に操作できる。			
15				患者に配慮した手技ができる。			
16							
17							
18	歯周外科治療に用いる器材について			歯周ポケット搔爬術の術式、使用器材について説明できる。			
19				新付着術・歯肉切除術の術式、使用器材について説明できる。			
20				歯肉剥離搔爬術の術式、使用器材について説明できる。			
21	分岐部病変の治療について			歯根分離・歯根分割抜去法・歯根切除について説明できる。			
22	エックス線画像について			エックス線写真の読影結果を説明できる。			
23	歯周病に関連する検査について			検査方法について特徴や操作手順が理解できる。			
24				判定結果について理解できる。			
25	復習(歯周病のリスクファクター)			歯周病のリスクファクターについて説明できる。			
26	復習(歯周病の分類)			歯周病の臨床的特徴と分類について説明できる。			
27	復習(歯周外科治療)			歯周外科治療の目的と適応症について説明できる。			
28	小テスト						
29	小テスト						
30	まとめ						

授業科目名	歯科保健指導法Ⅲ		担当者名	横山さゆり・菊地千代子 永沼由香・安達 渚・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・ 歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	3	後期	必修	演習
30							
授業概要	・国家試験に向け、これまで学習した振り返りを行う。また、模擬患者実習において情報データの集計や分析・介入を行い、成果をまとめ論文を作成する。						
学習到達目標	・歯科衛生士として必要な専門的な知識を習得する ・模擬患者実習を通じ、論文の作成・成果の発表の仕方を学ぶ。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	口腔保健の意義について復習						
2	歯科保健行動・歯科保健教育の復習						
3	対象把握と予防管理（疾病発生の予防のコンセプト）						
4	対象把握と予防管理（齲蝕予防の臨床について）						
5	ライフステージごとの口腔保健管理復習（妊婦期）			各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、食生活指導について振り返る。			
6	ライフステージごとの口腔保健管理復習（乳幼児期）						
7	ライフステージごとの口腔保健管理復習（幼児期）						
8	ライフステージごとの口腔保健管理復習（学童期）						
9	ライフステージごとの口腔保健管理復習（成人期）						
10	ライフステージごとの口腔保健管理計復習（老年期）						
11	特別な配慮が必要な人の口腔内状況と口腔保健管理						
12	機能障害別の指導法 摂食嚥下			障害のとらえ方と分類について説明できる。			
13	摂食嚥下の評価と対応			摂食嚥下リハビリテーションの流れを説明できる。			
14	摂食嚥下の評価と対応			スクリーニングテストについて説明できる。			
15	歯科衛生過程 事例展開			歯科衛生アセスメント、歯科衛生診断、歯科衛生計画・立案、歯科衛生介入、歯科衛生評価の5つのステップを踏まえ1症例を検討する。			
16	歯科衛生過程 事例展開						
17	歯科衛生過程 事例展開						
18	歯科衛生過程 事例展開						
19	歯科衛生過程 事例展開						
20	歯科衛生過程 事例展開						
21	歯科衛生過程 事例展開						
22	歯科衛生過程 事例展開						
23	歯科衛生過程 事例展開						
24	歯科衛生過程 事例展開						
25	歯科衛生過程 事例展開						
26	国家試験対策						
27	国家試験対策						
28	国家試験対策						
29	国家試験対策						
30	国家試験対策						

授業科目名	口腔保健管理学		担当者名	永沼 由香			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・ 歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	3	後期	必修	講義
15							
授業概要	・対象者の問題と原因を明確化し、問題解決の必要な一連の思考を理解する。						
学習到達目標	・対象者へ可能なかぎり最善の「歯科衛生介入」や「支援」を計画することができる。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	歯科衛生過程とは			歯科衛生過程の基本的な考え方を理解する。			
2	歯科衛生理論 歯科衛生ヒューマンニーズ概念モデルとは						
3	歯科衛生アセスメント ①情報収集			歯科衛生アセスメントについて説明できる。			
4	歯科衛生アセスメント ②情報の分類、整理						
5	歯科衛生アセスメント ③情報の解釈、分析						
6	歯科衛生診断 ①情報の統合			歯科衛生上の問題を明確化できる。 歯科衛生診断について説明できる。			
7	歯科衛生診断 ②歯科衛生診断分の作成						
8	歯科衛生診断 ③歯科診断介入の優先順位			プロブレムリストを作成できる。			
9	歯科衛生計画 ①目標の設定方法			問題を解決するために、目標・具体的な対応策を計画できる。			
10	歯科衛生計画 ②歯科衛生計画の選択と介入方法の設定						
11	歯科衛生介入 ①「SOAP」形式による実施記録			「SOAP」方式で記録できる。			
12	歯科衛生介入 ②「SOAP」形式による実施記録						
13	歯科衛生評価①歯科衛生評価とは②判定の仕方			計画の妥当性、介入の有効性、歯科衛生士の関りを総合判定し、評価できる。			
14	歯科衛生評価③判定結果の要因分析と問題の抽出④書面化						
15	まとめ(歯科衛生過程の展開)						

授業科目名	歯科診療補助法Ⅲ		担当者名	横山さゆり・菊地千代子 永沼由香・安達 渚・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 (末永書店)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	3	後期	必須	演習
30							
授業概要	暫間被覆冠の作成方法と装着目的や個人トレーの作成、3年間の診療補助業務の復習を行う。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暫間被覆冠や個人トレーの作成をすることができる。</li> <li>・各治療の診療補助業務を行うことができる。</li> </ul>						
評価方法	筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	暫間被覆冠の作成方法と装着目的			作成方法とその目的についてのべることができる			
2	6	印象法による暫間被覆冠の作製		印象法による暫間被覆冠を作成することができる			
3		"					
4	6	直接法による暫間被覆冠の作製					
5		"		直接法による暫間被覆冠を作成することができる			
6		"					
7	1	既製冠を使用しての暫間被覆冠の作製					
8		"		既成冠を使用して暫間被覆冠を作成することができる			
9		"					
10	2	1	1				
11		"		既成冠を使用してブリッジの暫間被覆冠を作成することができる			
12		"					
13	1	コア付き暫間被覆冠の作製					
14		"		コア付きの暫間被覆冠の作成をすることができる			
15		"					
16		アルジネート印象採得復習					
17		"		アルジネート印象材で上下顎の印象採得を正しく採ることができる			
18		"					
19		石膏・台付け					
20		"		印象材に石膏を正しく注入することができる			
21		個人トレーの作製					
22		"					
23		"					
24		無歯顎印象採得		無歯顎の概形印象を採ることができる			
25		個人トレーでの印象採得手順と準備物					
26		"					
27		修復・補綴の準備物					
28		歯内療法準備物復習					
29		口腔外科準備物復習					
30		矯正治療準備物と装置の復習					



授業科目名	摂食嚥下学		担当者名	小坂井 秀行			
			実務経験	言語聴覚士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	3	前期	必修	講義
		15					
授業概要	小児期の摂食嚥下機能は発達との関りで考えて、成人期・高齢期は後天的な疾病との関りで考える。それぞれのライフステージでの摂食嚥下障害に対する支援を多職種連携を通して理解する。						
学習到達目標	小児期から高齢期までのライフステージにおける摂食嚥下のメカニズム、摂食嚥下障害の原因、嚥下リハビリや方法を学び、人が経口摂取を続けていくために、歯科衛生士にできることを説明する。						
評価方法	出席、レポート、試験の結果を総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	摂食嚥下リハビリテーション総論			食えること、嚥下障害についての定義を説明できる。			
2	摂食嚥下リハビリテーション総論			摂食嚥下障害に対する各職種間連携と歯科衛生士の役割を理解する。			
3	小児の摂食嚥下の発達とメカニズム			小児の摂食嚥下機能の発達を理解する。			
4	成人以降の摂食嚥下のメカニズム			嚥下の5期を説明できる。			
5	嚥下障害を引き起こす原因と障害像			嚥下障害の原因となる病態を理解する			
6	加齢による嚥下機能の衰えとフレイル			加齢による嚥下障害を理解する			
7	摂食嚥下障害の検査と評価Ⅰ			嚥下障害の検査と評価を学ぶ			
8	摂食嚥下障害の検査と評価Ⅱ			嚥下障害の検査と評価を学ぶ			
9	摂食嚥下リハビリのリスク管理			嚥下リハビリのリスクを学ぶ			
10	口腔ケアと嚥下機能の関り			嚥下障害と歯と口腔ケアの重要性を学ぶ			
11	摂食嚥下障害への間接訓練			嚥下筋群へのアプローチ法を理解する			
12	摂食嚥下障害への直接訓練			嚥下調整食2021について理解する			
13	摂食指導と安全な食事介助			小児・成人の食事介助について理解する			
14	口から食べ続けるための多職種連携アプローチ			地域ケアでの歯科衛生士の活躍を知る			
15	栄養サポートにおける歯科衛生士の役割			NSTにおける歯科衛生士の役割を学ぶ			

授業科目名	臨地実習Ⅲ		担当者名	横山さゆり・菊地千代子 永沼由香・安達 渚・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	テキストなし	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		10					
		時間数	歯科衛生科	3	通年	必修	実習
450							
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに学んだ歯科医学と実習で得た経験をもとに、問題解決能力を身につける。</li> <li>・知識と技術を充実させ、さらに実践に活かすことのできる能力を身につける。</li> </ul>						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児や支援が必要な方への特性を理解し、その対応法を学ぶ。</li> <li>・自己を客観的に評価し、自ら向上する態度を身につける。</li> </ul>						
評価方法	実習状況						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1 ・ ・ ・ 360	前期 歯科医院・病院 44日 社会福祉施設 7日 保育園・幼稚園 1日			実習指導者 歯科医師・歯科衛生士 他			
361 ・ ・ ・ 450	後期 歯科医院 11日 社会福祉施設 2日			実習指導者 歯科医師・歯科衛生士 他			

授業科目名	臨床総合演習Ⅱ(前期)		担当者名	横山さゆり・菊地千代子 永沼由香・安達 渚・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	最新 歯科衛生士教本 高齢者歯科 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	歯科衛生科	3	通 年	必修	演習
120							
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬試験を通じ、自らの問題点を分析する。また、自ら解説を作成しフィードバックを行うことで、知識を確実に身につける。</li> <li>・幼児期から老年期に対し健康指導や歯科衛生指導の方法を学習し実践する。</li> </ul>						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬試験を実施し、試験科目ごとに自身の理解度を確認する。</li> <li>・摂食嚥下の評価方法について、スクリーニングテストの方法と評価基準および利点欠点を理解する。</li> </ul>						
評価方法	校内模擬試験、実技試験、出席日数						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	摂食嚥下の評価総論			摂食嚥下リハビリテーションの流れを説明できる			
2	スクリーニングテスト・精密検査(VE、VF)リハビリテーション各科			摂食嚥下機能評価方法、リハビリテーションの特徴を説明できる			
3	スクリーニングテスト リハビリテーション実習			摂食嚥下機能のスクリーニングテスト、リハビリテーションができる			
4	校内模擬試験						
5	"						
6	"						
7	"						
8	"						
9	"						
10	模擬試験解説						
11	"						
12	"						
13	"						
14	"						
15	"						
16	校内模擬試験						
17	"						
18	"						
19	"						
20	"						
21	"						
22	模擬試験解説						
23	"						
24	"						
25	"						
26	"						
27	"						
28	"						
29	"						
30	"						

31	''	
32	''	
33	''	
34	模擬試験解説	
35	''	
36	''	
37	''	
38	''	
39	校内模擬試験	
40	''	
41	''	
42	''	
43	''	
44	''	
45	模擬試験解説	
46	''	
47	''	
48	''	
49	''	
50	校内模擬試験	
51	''	
52	''	
53	''	
54	''	
55	''	
56	模擬試験解説	
57	''	
58	''	
59	''	
60	''	

授業科目名	臨床総合演習Ⅱ(後期)		担当者名	横山さゆり・菊地千代子 永沼由香・安達 渚・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・ 歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
時間数	120						
授業概要	・模擬患者実習において、歯科衛生過程を応用し計画・立案・介入を行う。 ・模擬患者実習の成果として論文にまとめ、発表することができる。						
学習到達目標	・対象者の問題点を見つけ、自分で解決する能力を身につける。 ・主観的評価と客観的評価を総合的に判断することができる。						
評価方法	実技総評、論文、出席日数						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	模擬患者実習についての説明						
2	模擬患者実習 顔合わせ						
3	模擬患者実習準備						
4	模擬患者実習 口腔内診査1)						
5	"						
6	歯科衛生アセスメント 情報収集						
7	模擬患者実習 口腔内診査2)						
8	"			対象者の情報をまとめることができる。			
9	歯科衛生アセスメント 情報の分類・整理						
10	歯科衛生診断 情報の統合						
11	歯科衛生診断 診断文の作成①						
12	歯科衛生診断 診断文の作成②			歯科衛生診断文を作成することができる。			
13	歯科衛生診断 介入の優先順位づけ、介入計画			プロブレムリストを作成できる。			
14	歯科衛生介入①						
15	歯科衛生介入②						
16	歯科衛生実施記録の記入						
17	歯科衛生実施記録の記入						
18	歯科衛生介入②						
19	歯科衛生介入②						
20	歯科衛生実施記録の記入						
21	歯科衛生実施記録の記入						
22	歯科衛生介入③						
23	歯科衛生介入③						
24	歯科衛生実施記録の記入						
25	歯科衛生実施記録の記入						
26	歯科衛生評価 目標達成度						
27	対象者の満足度の判定						
28	要因分析			介入の結果を評価する。			
29	問題抽出						
30	模擬患者実習 反省会						
31	模擬患者実習論文作成			歯科衛生過程を用いて行った模擬患者実習の成果をまとめ、発表することができる。			
32	"						
33	"						
34	"						
35	"						
36	"						
37	"						
38	"						
39	"						

40	〃	
41	〃	
42	〃	
43	〃	
44	〃	
45	〃	
46	〃	
47	〃	
48	〃	
49	〃	
50	〃	
51	〃	
52	〃	
53	〃	
54	〃	
55	〃	
56	模擬患者実習発表 リハーサル	
57	〃	
58	模擬患者実習 発表・教員の講評	
59	〃	
60	〃	

授業科目名	隣接医学		担当者名	及川 幸恵			
			実務経験	看護師として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科衛生士のための 全身ハンドブック (医歯薬出版株式会社) 配布資料(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	歯科衛生科	3	後期	必修	講義
15							
授業概要	超高齢社会となった今日、歯科治療を受ける患者さんの多くは何らかの疾患をもっているという考えのもとに対応しなければならない。またチーム医療の一員として歯科衛生士へ求められる役割が多様になっている。歯科臨床において遭遇する頻度の高いものを中心に疾患の病態、治療の基礎を学習する。						
学習到達目標	疾患の病態、治療等の基礎を学び臨床においてどのようにその知識を活用するのか理解する						
評価方法	出席、試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	脳血管疾患、てんかん			脳血管疾患、てんかんの定義、臨床におけるの注意点を説明できる。			
2							
3	高血圧、心疾患			高血圧、心疾患の定義、臨床におけるの注意点を説明できる。			
4							
5	糖尿病、シェーングレイン症候群			糖尿病、シェーングレイン症候群の定義など基本的な知識、臨床におけるの注意点を説明できる。			
6							
7	肝疾患、骨粗鬆症			肝疾患、骨粗鬆症の定義、臨床におけるの注意点を説明できる。			
8							
9	アレルギー、妊婦と歯科治療			アレルギーの定義、注意点を説明できる。妊娠中の歯科治療の注意点を説明できる。			
10							
11	悪性腫瘍、肺炎			悪性腫瘍、肺炎の定義、臨床における注意点を説明できる。			
12							
13	酸素療法、鼻腔吸引(講義と実習)			酸素療法、鼻腔吸引の適応、実施方法の手順、手技、注意点を説明できる。			
14							
15	まとめ			テスト対策			

授業科目名	歯科医療事務		担当者名	菊地 千代子・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	歯科保険請求マニュアル 令和6年版 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	30	歯科衛生科	3	前期	必修
授業概要	保険についての基礎知識とレセプトと保険請求の仕組みについて学ぶ。 診療処置内容ごとに点数算定の解説を行い、各症例のレセプト作成を行う。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保険の基礎知識、レセプト、保険請求の仕組み、請求書の書き方について理解する。</li> <li>・カルテの内容を理解する。</li> <li>・点数算定の解釈とその応用が正しくできる。</li> <li>・正確にレセプト作成ができる。</li> </ul>						
評価方法	筆記試験・レセプト作成により総合評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	レセプトと保険請求の基礎知識			保険請求の仕組みについて理解できる。			
2	請求明細書の書き方（カルテ記載・傷病名部位）			レセプトに使用できる略語が理解できる。			
3	請求明細書の書き方（基本診療料）			初診料・再診料について理解できる。			
4	請求明細書の書き方（医学管理等）			歯科疾患管理料・歯科衛生実地指導料について理解できる。			
5	請求明細書の書き方（画像診断・検査）			各種画像診断の点数について理解できる。			
6	請求明細書の書き方（画像診断・検査）			歯周病検査について理解できる。			
7	請求明細書の書き方（処置…齶蝕処置・歯髄保護）			歯髄保護処置について理解できる。			
8	請求明細書の書き方（処置…抜髄・感根治・根充）			抜髄から根充までについて理解できる。			
9	請求明細書の書き方（処置…スケーリング・ルートプレーニング）			SC・SRPの算定方法について理解できる。			
10	請求明細書の書き方（手術…拔牙）			拔牙・歯周外科手術について理解できる。			
11	請求明細書の書き方（麻酔）			伝達麻酔・浸潤麻酔について理解できる。			
12	請求明細書の書き方（歯冠修復および欠損補綴…印象・咬合）			各種印象採得の算定方法について理解できる。			
13	請求明細書の書き方（歯冠修復および欠損補綴…歯冠形成）			生PZと失PZについて理解できる。			
14	請求明細書の書き方（歯冠修復および欠損補綴…充填・充填材料）			単純窩洞と複雑窩洞について理解できる。			
15	請求明細書の書き方（歯冠修復および欠損補綴…修復）			部位と種類の算定について理解できる。			
16	請求明細書の書き方（歯冠修復および欠損補綴…ブリッジ）			ブリッジの算定方法について理解できる。			
17	請求明細書の書き方（歯冠修復および欠損補綴…有床義歯）			有床義歯の算定方法について理解できる。			
18	請求明細書の書き方（歯冠修復および欠損補綴…有床義歯）			義歯修理について理解できる。			
19	請求明細書の書き方（訪問診療・在宅診療）			訪問診療について理解できる。			
20	レセプト作成（初期齶蝕の治療…充填）			レセプト作成が理解できる。			
21	レセプト作成（初期齶蝕の治療…充填）			レジン充填のレセプト作成ができる。			
22	レセプト作成（初期齶蝕の治療…インレー修復）			インレー修復のレセプト作成ができる。			
23	レセプト作成（歯髄の処置…抜髄）			抜髄のレセプト作成ができる。			
24	レセプト作成（歯髄の処置…根充）			根管充填のレセプト作成ができる。			
25	レセプト作成（スケーリング）			スケーリングのレセプト作成ができる。			
26	レセプト作成（補綴…クラウン）			クラウンのレセプト作成ができる。			
27	レセプト作成（補綴…ブリッジ）			ブリッジのレセプト作成ができる。			
28	レセプト作成（拔牙）			拔牙のレセプト作成ができる。			
29	レセプト作成（有床義歯）			有床義歯のレセプト作成ができる。			
30	まとめ・復習						



授業科目名	特別研修		担当者名	横山さゆり・菊地千代子 永沼由香・安達 渚・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	配布資料 プリント	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	歯科衛生科	3	後期	必修	演習
60							
授業概要	・様々な研修および授業を実施し、歯科衛生士の活躍の場や卒業後の進路決定を見出す。						
学習到達目標	・歯科衛生士法を理解したうえで関連する職域の法制度についても学び、相互理解に役立てる。 ・歯科関連企業の歯科衛生士より最先端の技術や製品について学び、見聞を広める。 ・模擬試験で自分の学習到達程度を知り、今後の学習に役立てる。						
評価方法	実技総評、論文、出席日数						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	企業 特別講義 ホワイトニング			教科書での理解から、臨床での最新ホワイトニングについて学ぶ。			
2	"						
3	"						
4	"						
5	"						
6	"						
7	企業 特別講話 就職活動の心得						
8	"						
9	"						
10	企業 特別講義 シャープニング			自分のスケーラーをシャープニングし、適切な角度を理解する。DULLスケーラーの刃部を作成する。			
11	"						
12	"						
13	企業 特別講義 超音波スケーラー			超音波の出力の違いを実際に見る。			
14	"			イリゲーションを行う。			
15	"						
16	衛生法規 歯科衛生士法について(復習)			業務独占、名称独占について理解する。			
17	免許の申請登録・相対的欠格事由						
18	歯科衛生士国家試験						
19	歯科医師法 歯科技工士法						
20	医療法 医療の安全確保			医療機関の広告規制について理解する。			
21	医療関係職種						
22	薬事に関連する法規			毒物及び劇物取り締まり法。			
23	小テスト 法規関係						
24	企業 特別講義 超音波歯ブラシ			超音波歯ブラシの特徴を理解し正しく使用する。			
25	"						
26	"						
27	企業 特別講義 口腔内カメラ			きれいな口腔内写真の撮り方を学ぶ。			
28	"						
29	"						
30	"						
31	"						
32	模擬患者実習論文作成			歯科衛生過程を用いて行った模擬患者実習の成果をまとめ、発表することができる。			
33	"						
34	"						
35	"						
36	"						
37	"						
38	"						
39	"						
40	"						
41	"						
42	"						
43	校内模擬試験						
44	"						
45	"						
46	"						
47	"						
48	"						

49	校内模擬試験	
50	〃	
51	〃	
52	〃	
53	〃	
54	〃	
55	校内模擬試験	
56	〃	
57	〃	
58	〃	
59	〃	
60	〃	

授業科目名	国家試験対策		担当者名	横山さゆり・菊地千代子 永沼由香・安達 渚・星 仁美			
			実務経験	歯科衛生士として病院勤務の経験がある			
教科書	配布資料 プリント 全国歯科衛生士模擬試験 (業者)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		6					
		時間数	歯科衛生科	3	後期	必修	講義
90							
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科を復習することにより、基礎学力を確実なものにする。</li> <li>模擬試験等の問題を解くことを経験し、試験に慣れる。</li> </ul>						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験出題基準に準じた模擬試験を受け、60%以上正解できる。</li> <li>各教科の要点を理解し、応用力を高める。</li> </ul>						
評価方法	模擬試験結果、出席						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	第1回 全国模擬試験						
2	"						
3	"						
4	"						
5	"						
6	"						
7	全国模擬試験解説						
8	"						
9	第2回 全国模擬試験						
10	"						
11	"						
12	"						
13	"						
14	"						
15	全国模擬試験解説						
16	"						
17	第3回 全国模擬試験						
18	"						
19	"						
20	"						
21	"						
22	"						
23	全国模擬試験解説						
24	"						
25	第4回 全国模擬試験						
26	"						
27	"						
28	"						
29	"						
30	"						
31	全国模擬試験解説						
32	"						
33	第5回 全国模擬試験						
34	"						
35	"						
36	"						
37	"						
38	"						
39	全国模擬試験解説						
40	"						
41	第6回 全国模擬試験						
42	"						
43	"						
44	"						
45	"						
46	"						
47	全国模擬試験解説						
48	"						

49	第7回 全国模擬試験	
50	〃	
51	〃	
52	〃	
53	〃	
54	〃	
55	全国模擬試験解説	
56	〃	
57	第8回 全国模擬試験	
58	〃	
59	〃	
60	〃	
61	〃	
62	〃	
63	全国模擬試験解説	
64	〃	
65	〃	
66	〃	
67	生化学	国家試験に向け、過去問題や新たな出題のポイント、各教科の内容等について多角的に理解する。
68	〃	
69	〃	
70	〃	
71	〃	
72	〃	
73	歯科放射線学	
74	〃	
75	〃	
76	〃	
77	公衆衛生学	
78	〃	
79	〃	
80	〃	
81	口腔衛生学	
82	〃	
83	〃	
84	〃	
85	修復学	
86	〃	
87	〃	
88	歯内療法学	
89	〃	
90	〃	